

日本語学論説資料
第五十一号(平成二十六年分)

収録論文一覧

第一分冊(国語学一般・国語史・文字・表記)

一 国語学一般

愛媛大学人文学会 人文学論叢 一六 (二四・二)	日本語史の時期区分試論	清水 史	1
大阪府立大学 言語文化学研究 日本語 日本文学編 九(一四・三)	国語施策と文法教育	山東 功	一
汲古書院 汲古 六五(二四・六)	訓点語研究史における築島裕博士の功績と残された課題	小林 芳規	九
京都大学文学部国語学国文学研究室 国 語国文 八三・九(二四・九)	狸親父の一言 ―古事記はよめるか―	木田 章義	一九
京都大学文学部国語学国文学研究室 国 語国文 八三・二(二四・二)	上代語活用助辞と動詞語尾との歴史的關係について	釘 貫 亨	三九
京都産業大学 日本文化研究所紀要 一九 (二四・三)	上田秋成の言語論 ―「無法」の文体―	宮川 康子	6
國學院大學 國學院雜誌 一一五・三 (二四・三)	藤林普山『和蘭語法解』における格理解	服部 紀子	12
国語教育史学会 国語教育史研究 一四 (二四・三)	用語「話し言葉」の成立過程 昭和一〇年代における話し言葉教育との関係で	渡辺 通子	19
静岡県立大学短期大学部 言語文化研究 二二(一四・三)	現代受身文の分類と理論 ―松下文法から日本語記述文法へ―	岡田 誠	24
静岡県立大学短期大学部 言語文化研究 二二(一四・三)	「平成二十三年度国語に関する世論調査」をめぐる新聞報道	新野 直哉	32
上智大学国文学科紀要 三二(二四・三)	明治前期のテニヲハ観 ―助詞の定義と下位分類を中心に―	服部 隆	四七
成蹊大学大学院 成蹊人文研究 二二 (二四・三)	東アジアの近代と言語認識 ―日本の視点から―	石 剛	38
清泉女子大学人文学研究所紀要 三五 (二四・三)	明治の写本	今野 真二	六六
全国大学国語国文学会 文学・語学 二二〇(二四・八)	平成二十四年の国語学古典語の動向	佐野 宏	八〇
全国大学国語国文学会 文学・語学 二二〇(二四・八)	近代語 ―理論と分析―	木村 一	八三
同志社女子大学日本語日本文学 二六 (二四・六)	蘭書三訳法の起源とその名称	吉野 政治	八五
奈良女子大学大学院 人間文化研究科年 報 二九(一四・三)	顕昭の歌学と音韻相通説	岡崎 真紀子	九四

日本のローマ字社 ことばと文字 一 (二四・四)	世界の言語と日本語の将来	宮島達夫	45
弘前大学国語国文学 三五 (一四・三)	「国語」で読むということ ―翻訳文学の教材価値に関する一考察―	鈴木愛理	51
弘前大学国語国文学 三五 (一四・三)	俵訓葉を中心とした近世国語辞書史研究の目指すもの	平井吾門	一〇〇
弘前学院大学文学部紀要 五〇 (二四・三)	日本語書記と本文テキストに関する読み手の存在の論争私見 日本語学会二〇一二年春季大会における仮名の書記(Writing)に対する小松英雄氏による批判と、時枝誠記の言語過程における文字論についての日本語史的な位置付け	室井努	68
法政大学国際日本学研究所研究成果報告集 国際日本学 一一(一四・三)	森有正による日本語分析の問題	ロラン・ローベル	76
横浜国大国語研究 三三(一四・三)	映像による言語の浸食をどのように考えるか ―言語の発生 仮説から見た現代―	古田恵美子	91
立命館大学国際言語文化研究所 立命館言語文化研究 二五・三(一四・二)	『航海日録』と『広八日記』の比較考察	彦坂佳宜	97
立命館大学国際言語文化研究所 立命館言語文化研究 二六・二(一四・一)	多言語主義の過去と現在 ―近代日本の場合―	安田敏朗	107
二 国語史			
愛知教育大学国語国文学研究室 国語国文学報 七一(二三・三)	『国語教育誌』の書誌と記載内容概要(六)	有働裕	一二三
愛知県立大学 説林 六二(一四・三)	木簡は古代日本語について私たちに何を語るか	犬飼隆	116
愛媛大学人文学会 人文学論叢 一六 (一四・二)	「四つ仮名」の方言日本語史的研究	陳之露	120
大阪大谷大学日本語日本文学会 大阪大谷国文 四四(一四・三)	久安六年本『三国祖師影』の訓点について ―池上阿闍梨点を巡る一問題―	宇都宮啓吾	一二二
岡山大学言語国語国文学会 岡大國文論稿 四二(一四・二)	中世末期における『論語』写本の一形態 ―阪本龍門文庫蔵『魯論抜書』―	片山鮎子	一二〇
九州産業大学国際文化学部紀要 五七 (二四・三)	日本語史資料としての仮名文書 ―仮名文書と『徒然草』―	辛島美絵	一二五
九州産業大学国際文化学部紀要 五八 (二四・九)	日本語史資料としての仮名文書 ―禁止の「不可」を使用する仮名文書から―	辛島美絵	一四八
京都産業大学日本文化研究所紀要 一九 (二四・三)	後桜町女帝の書写伝授された仮名論語	所功	一六〇
京都女子大学国文学会 女子大國文 二五五(一四・九)	猪熊本『令義解』の訓点	西崎亨	一八二
京都女子大学大学院文学研究科研究紀要 国文論叢 一三(一四・三)	國學院大學附属図書館猪熊本 令義解譯文稿	西崎亨	二〇〇
杏林大学研究報告 教養部門 三〇 (一三・一)	W.H.Medhurstの“VOCABULARY, ENGLISH AND JAPANESE”の“do”表記の項目を中心として	玉村禎郎	127
金城学院大学論集 人文科学編 一一一 (二四・九)	Bernard BlochのSpoken Japaneseに関する研究 ―その成立の時代的背景―	池田菜探子	136

國學院大學 國學院雜誌 一一五二 (四・一)	江戸語・東京語から首都圏方言へ	諸星美智直 岩橋清美 久野マリ子 シユテフアン・カイザー 御園生保子 三井はるみ 竹部歩美	二二三
國學院大學院友学術振興会 新国学 六 (二四・一〇)	石塚龍麿『仮名遣奥山路』下・東大蔵橋本進吉写本(翻刻)	竹部歩美	*
國學院大學院友学術振興会 新国学 六 (二四・一〇)	『鶯塚千代廼初聲』初編く四編(翻刻)	浅川哲也	*
國學院大學大学院紀要 文学研究科 四五(一四・三)	明治前後の西洋人によるワ・ガの記述再考	シユテフアン カイザー	155
静岡県立大学短期大学部言語文化学会 言語文化研究 一三三(一四・三)	松園梅彦編『五国語箋』の成立について	村山昌俊	163
首都大学東京都市教養学部人文・社会学系 人文学報 日本語教育学 四八八 (二四・三)	ニコライ・レザノフ『日本語理解の手引き』(邦訳)	浅川哲也 グリブ、ディーナ	*
首都大学東京都市教養学部人文・社会学系 人文学報 日本語教育学 四八八 (二四・三)	『花暦封じ文』初編く四編(翻刻)	浅川哲也	*
成城大学文芸学部 成城文芸 二二六 (二四・三)	さまよえる(憂い) — 辞苑閑話・四—	工藤力男	二二六
成城大学文芸学部 成城文芸 二二八 (二四・九)	概数表現くさくさ — 辞苑閑話・六—	工藤力男	二二三
清泉女子大学人文科学研究所紀要 三五 (二四・三)	『訳雑笑話』の書誌と諸本	荒尾禎秀	二二六
専修大学日本語日本文学文化学会 専修 国文 九四(一四・一)	『西国立志編』解題・第十三編(一章く二十章) 本文及び語彙索引稿	鈴木丹士郎 鈴木丹士郎	*
専修大学日本語日本文学文化学会 専修 国文 九五(一四・九)	『西国立志編』解題・第十三編(二十一章く四十 一章) 本文及び語彙索引稿	鈴木丹士郎 松本守	*
東京学芸大学紀要 人文社会科学系一 六五(二四・一)	類集文字抄箋証	高橋忠彦 高橋久子	二四五
同志社大学日本語・日本文化研究 一一 (二四・三)	明治時代の東京語資料としてのClay MacCauley 著『日本語入門』	李長波	172
東北大学大学院教育学研究科研究年報 六二(一三・一)	明治期の往来物に関する研究 — 書式文例集の展 開—	八俣友広	184
奈良県立万葉文化館 万葉古代学研究年 報 一一(二四・二)	「あきはぎ木簡」の釈読について	竹本晃	二五五
日本女子大学大学院文学研究科紀要 二〇(二四・三)	日本女子大学図書館蔵『源氏物語』紹介 — 桐壺 翻刻と仮名使用について—	坂本清恵 他七名	二六〇
日本のローマ字社 ことばと文字 二 (二四・一〇)	W・H・メドハーストと著書『英和・和英語彙』 をめぐる一考察	金沢朱美	192
弘前大学教育学部紀要 一一二 (二四・一〇)	倭訓栞の長大項目について	平井吾門	197
広島大学教育学部国語教育会 国語教育 研究 五五(二四・三)	広島大学図書館蔵『百人一首聞書』享祿二年写本 翻刻(一)	広島大学日本語 史研究会	二七一
北海道教育大学札幌校国語学第二研究室 イソツブ資料 四(二四・二)	『俗入朝野新聞』に連載された『伊曾保物語』 — 解説編—	吉見孝夫	二七七

北海道教育大学札幌校国語学第二研究室 インソップ資料 四(一四・三)	『絵入朝野新聞』に連載された『伊曾保物語』 — 複写編 —	吉見孝夫 二八三
北海道教育大学札幌校国語学第二研究室 インソップ資料 四(一四・三)	『絵入朝野新聞』に連載された『伊曾保物語』 — 翻字編 —	吉見孝夫 二九七
北海道教育大学札幌校国語学第二研究室 インソップ資料 五(一四・一〇)	新村出の「影模絵入蘭文伊曾保物語断簡」解説原稿	吉見孝夫 三二二
三重大学 日本語学文学 二五 (二四・〇)	「影模絵入蘭文伊曾保物語断簡」考	吉見孝夫 202
山梨大学教育人間科学部紀要 CD-R OM版 一五(一四・三)	コリヤード『羅西日辞書』諸本の異同(三) — 「マドリ一本」をめぐる — 『和字正濫要略』のめざしたもの — 書くことへの指向 —	川口敦子 232 長谷川千秋 三二六

三 文字・表記

愛知県立大学 説林 六一(一四・三)	書記者の位相 — 『出雲国風土記』と「出雲国大税 賑給歴名帳」の共通した用字 —	鈴木 喬 三二二
愛知県立大学 説林 六一(一四・三)	古代東アジア諸国におけるクラの用字	方 国花 三二六
茨城大学留学生センター紀要 二二 (二四・二)	漢字親密度から見た医療系国家試験出現漢字の 「難解さ」の評価	石 鍋 浩 237
桜美林大学 桜美林論考 人文研究 人 文学系／芸術・文化学系 五(二四・三)	「欄(杠)」「樸(樸)」と「ゆずりは」	寺 井 泰 明 243
科学技術振興機構 情報管理 五七五 (二四・八)	電子行政における使用漢字の問題	榎 並 利 博 253
関東学院大学文学部 比較文化論集 五 (二二・三)	近代日本語表記に関する一考察 — 『破戒』の振 り仮名表記を中心に —	朱 喬 三三四
熊本大学教育学部国文学会 国語国文 研究と教育 五二(二四・二)	『浮雲』の「あて字」研究 — 辞書類との比較を通 して —	竹 下 孝 世 三四七
熊本大学文学部国語国文学会 国語国文 学研究 四九(一四・三)	古代本筋における音仮名「止」字を中心に	藤 本 憲 信 三五四
慶應義塾大学藝文学会 藝文研究 一〇六(一四・六)	中世末期日本語の(語)と(語)表記 — 『天草版 平家物語』前半の分かち書きから —	屋 名 池 誠 257
言語と交流研究会 言語と交流 一七 (二四・七)	初級作文における漢字使用 — 漢字テストとの関 連性 —	福 田 佳 与 269
神戸大学文学部国語国文学会 国文論叢 四八(一四・三)	明治前期の出版物における平仮名字体の使用傾向 について	ダニエル・ 小林ベター 三六三
國學院大學 國學院雑誌 一一五一 (二四・一)	万葉集の題詞左注における郡郷名表記について	中 野 真 樹 273
國文学言語と文芸の会 国文学 言語と 文芸 二二四(〇八・三)	万葉集は伴家持が編纂した(Ⅰ) — 統計的研究 の効用 —	北 川 和 秀 三七二
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビュー 五一(一四・〇)	文字環境と単純接触効果	中 村 昭 三八一
上代文学会 上代文学 一一二 (二四・四)	漢数字の仮名用法について — 「師」・「僧」に及 ぶ —	横 山 詔 一 280 李 敬 美 三九五
清泉女子大学紀要 六一(二三・二)	明治期の漢字字体	今 野 真 二 四〇二

東京女子大学言語文化研究 二〇 (二・三)	文字表記に関する研究 — 日本語の文字の使い分け—	藤田千夏	287
同志社大学国文学会 同志社国文学 八〇 (一・四・三)	万葉集における仮名と漢字 (一)	石井久雄	294
同志社大学国文学会 同志社国文学 八一 (一・四・一)	和漢朗詠集近世板本の短歌表記における漢字	石井久雄	300
名古屋大学 日本語・日本文化論集 二一 (一・四・三)	漢字の汎用性調査および漢字同定のための国際基準設定の提案	徳弘康代	306
奈良女子大学日本アジア言語文化学会 叙説 四一 (一・四・三)	萬葉集歌表記における「表意性」と「表語性」を巡る一試論	尾山 慎	四〇九
二松学舎大学 人文論叢 九一 (二・四・三)	中古仮名文学における馬寮官人「うまのかみ」等の解釈について — 「馬」と「右馬」の表記をめぐる—	藤田拓海	四二二
日本文学協会 日本文学 六二七 (二・四・七)	勅撰集の書式と表記の関係 — 新古今集以降の古筆切を対象として—	佐々木孝浩	四三四
日本文学協会 日本文学 六二七 (二・四・七)	歌仙絵における文字表記 — 左右の意識と左書きの来歴—	寺島恒世	四三八
フェリス学院大学国文学会 玉藻 四八 (一・四・三)	ファクション誌におけるカタカナの役割と表現効果について	金野美帆	四三九
別府大学国語国文学 五五 (一・三・二)	表記符号の用法に関する小考 — 現代日本語表記のナカグロの用法を例に—	内山和也	322
法政大学文学部紀要 六九 (一・四・二〇)	手書き文字の筆跡と表記の親近性が自他の名前判断に及ぼす影響	福田由紀 青山乃	329
明治大学 古代学研究所紀要 二〇 (二・四・三)	いちしるき主体構築 — 『感管抄』にみる、「カタカナ表記」のパフォーメティブ—	深澤 徹	四四三
桃山学院大学 国際文化論集 四八 (二・三・八)	中上級日本語教科書における非外来語のカタカナ表記の実態	村中淑珊	335
立命館大学 立命館白川静記念東洋文字 文化研究所紀要 八 (二・四・七)	現代における古今和歌集表記の漢字	石井久雄	346
立命館大学国際言語文化研究所 立命館 言語文化研究 二五三 (一・四・二)	航米日録の漢字、その定量的概要	石井久雄	357
立命館大学国際言語文化研究所 立命館 言語文化研究 二五三 (一・四・二)	明治期における外国地名表記 — 新島襄の草稿を資料として—	入江 さやか	368
立命館大学日本文学会 論究日本文学 一〇〇 (一・四・五)	外来語語末長音の表記のゆれについて	小椋秀樹	四五五

* …… 論説資料のページ数の制約により、掲載できなかった長大な論文

*** …… 著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第二分冊 (文法)

文法

愛知大学語学教育研究室紀要 言語と文化 二八 (一三・一)	「は」和「が」在信息表達上的區別 (原文は簡体字)	魯薛 曉 珉	1
愛知大学国文学 五三 (一四・一)	「非動詞性名詞ナスル」の語構成	古澤 純	6
愛媛大学人文学会 人文学論叢 一六 (二四・二)	古代日本語の一人称について	村尾 恵一	14
桜美林大学言語教育研究所 桜美林言語教育論叢 九 (一三・三)	「原因」と「結果」のアンバランス	東條 和子	20
大阪大学 OUPEL, Osaka University Papers in English Linguistics 16 (一三・七)	A NOTE ON CLAUSAL COMPARATIVES IN JAPANESE	MAYUMI YOSHIMOTO	27
大阪市立大学国語国文学研究室文学史研究会 文学史研究 五四 (一四・三)	原因・理由を表す「テ」形節・「タメ(ニ)節・「ノ」節の使用制約 ―前・後件の「緊密性」という観点から―	由 揚	一
香川大学教育学部研究報告 第一部 一四一 (一四・三)	中外抄・富家語における希望表現について	柴田 昭二 連 仲友	六
学習院大学大学院日本語日本文学 一〇 (二四・三)	『和泉式部日記』に於ける消息の特殊性 ―係助詞ソ・ナム・コソの用法をめぐって―	松岡 千賀子	36
神奈川大学人文学会 人文研究 一七九 (二二・三)	命題態度への意味論的制約 ―日本語補助動詞「テクルル」の場合	松尾 貴哲	41
金沢大学国語国文 三九 (一四・三)	日本語心象文法論への試み	河原 修一	一〇
金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要 六 (四・二)	万葉集・三代集における危惧表現をめぐって ―「モン」「モコソ」を基点として―	近藤 明	一五
関西外国語大学研究論集 九九 (二四・三)	「形容詞十名詞」とそれに関連した修飾成分 ―連体と連用の交替をめぐって―	光信 仁美	62
関西学院大学日本文学会 日本文藝研究 六六 (一四・一〇)	主體変化動詞・状態動詞・天候動詞の「Vテイク形」・「Vテクルル形」	佐々木 幸太	71
北九州市立大学国際論集 一一 (二二・三)	言語空間モデルの視点から見た日本語の条件文 ―「は」「たら」「と」の三形式を中心に―	劉 曉華	82
汲古書院 汲古 六三 (一三・六)	古典語において接頭語とされる「うら」についての一考察 ―形容詞が後接する場合―	山王丸 有紀	一九
京都大学文学部国語国文学研究室 国語国文 八二八 (一三・八)	ロドリゲス大文典における主語と主格について	小鹿原 敏夫	95
京都大学文学部国語国文学研究室 国語国文 八三二 (一四・一)	散文と韻文のミ語法	佐佐木 隆	一三
京都大学文学部国語国文学研究室 国語国文 八三一 (一四・二)	上代の「せば」仮定とサ変動詞 ―反実仮想「せば」とサ変「セバ」との共時的関係について―	中川 和也	三〇
京都外国語大学 無差 二〇 (二三・三)	ばかしの「ておく」と強調の「ておく」の違い	中西 久美子	106
京都西山短期大学 西山学苑研究紀要 八 (三三・三)	順序を表す接辞「第」と「目」の用法考察	陶 萍	113
京都府立大学国文学会 和漢語文研究 一〇 (二二・一)	副詞的修飾成分「くらい」の程度用法に関する考察	川崎 一喜	124
熊本大学文学部国語国文学会 国語国文学研究 四八 (一三・一)	『今昔物語集』に見られるテアリとタリ対比 ―「テアリ対タリ」と「テアリケリ対タリケリ」―	山下 和弘	三九

熊本県立大学日本語日本文学会 国文研究 五八 (一一・三六)	否定命令文の基本的機能	佐藤友哉	四七
言語と交流研究会 言語と交流 (二・四・七)	完了・完遂の局面動詞との結合関係から分析した「心理動詞」のアスペクト	関口美緒	132
神戸市外国語大学研究科論集 一六 (二・三・七)	名詞「予定」の文末用法と機能変化	洪 潔	140
國學院大學 國學院雜誌 一一五 (二・四・五)	対象事態の提出——中古和文における体言下接の終助詞ヨについて——	富岡宏太	五四
國學院大學日本語教育研究 四 (二・三・四)	近代東京語における「てくたされませ系統」行為要求表現の考察	陳 慧玲	147
國學院大學日本語教育研究 四 (二・三・四)	現代日本語教科書の受身文	岡田 誠	156
埼玉大学大学院 日本アジア研究 一〇 (二・三・四)	連体修飾節の形容詞的用法と他動性	蔡 梅花	163
四国大学紀要 A 人文・社会科学編 B 自然科学編 A 四〇・B 三七 (二・三・三六)	『拾遺和歌集』の副助詞サへ——平安朝和歌における(周縁波及性)の意義の一確認(其二)——	田中敏生	六一
四国大学紀要 A 人文・社会科学編 B 自然科学編 A 四一・B 三八 (二・三・二二)	『万葉集』の副助詞ノミ——基本義(収縮的単一性) 推定の試み——	田中敏生	六六
四国大学紀要 A 人文・社会科学編 B 自然科学編 A 四二・B 三九 (二・四・二六)	『万葉集』の副助詞ダニ——上代における(相対的軽少性)の意義の確認——	田中敏生	八四
島根大学法文学部紀要言語文化学科学科編 島大言語文化 三五 (一・三・一〇)	テイルの統語論	小林 亜希子	177
上智大学 Sophia Linguistica 61 (一・四・一四)	日本語後置構文と言語情報処理	鎌田 浩二	196
白百合女子大学国語国文学会 国文白百合 四五 (一四・二)	「は」と「が」使いわけの研究	王 彦花	207
人文科教育学会 人文科教育研究 四二 (二・四・八)	中学生の作文に見られる「○○ハ」の重複——主題を引き継ぐ文脈での文法的なつまずき——	山下 直	213
全国大学国語国文学会 文学・語学 二〇七 (一・三・一一)	Self-Helpの明治期翻訳二種に見る訳出の様相——関係代名詞節を対象に——	八木下 孝雄	219
全国大学国語国文学会 文学・語学 二〇八 (一・四・三)	『雨月物語』における係結びの特異性——コソ・ゾの破格の再検討——	藁科 勝之	九八
専門日本語教育学会 専門日本語教育研究 一六 (一四・一二)	人文・社会学系優秀卒業論文の分析——引用の使用に関する基礎調査——	矢野 和歌子	225
創価大学日本語日本文学会 日本語日本文学 二二二 (一・二・三)	「〜ようになる」と「〜てくる」についての分析	王 崗	228
創価大学日本語日本文学会 日本語日本文学 二二三 (一・三・三)	現代日本語話者の条件表現の使い分け 機能言語学的視点からの一考察	リクス 秀美	232
大東文化大学紀要 人文科学 五二 (二・四・一三)	受身表現の表す意味体系について	高橋 弥守彦	242
拓殖大学大学院 言語教育研究科研究年報 一四 (一四・二)	「V+テイル」構文と「トコロ」構文	曹 倩	250
中央大学大学院 大学院研究年報 文学研究科編 四三 (一四・二)	『万葉集』における接続表現——「なへ(に)」の機能と意味関係——	清水真澄	一〇五
筑波大学人文社会科学研究科現代語・現代文化専攻 論叢 現代語・現代文化 九 (二・二・一〇)	日本語結果表現に関する予備的考察	宮腰 幸一	254

筑波大学人文社会科学研究所現代語・現代文化専攻 論叢 現代語・現代文化 二二(一四・三)	日本語ヴォイスの統合的・系列的多重構造…予備的考察	宮腰 幸一	*
筑波大学大学院 筑波応用言語学研究 二〇(一三・一一)	日本語達成動詞の結果性のキャンセル可能性について	阿久澤 弘陽	276
筑波大学大学院 文芸言語研究 言語篇 六六(二四・一〇)	日本語における無情物・無意志の可能表現について	大江 元貴	283
東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻紀要(Language, Information, Text) 二二(四・一一)	名詞述語文の分類	野村 剛史	293
東京外国語大学記述言語学論集 思言 九(一三・一一)	日本語における「オノマトペ十する」の名詞修飾用法	黄 慧	300
東京外国語大学 日本研究教育年報 一七(二・一〇)	名詞句の性状規定性に関する一考察	新屋 映子	310
東京外国語大学 日本研究教育年報 一七(二・一〇)	名詞が文末名詞として働くものについて	辺 純影	317
東京外国語大学 日本研究教育年報 一八(二・一〇)	「模倣」を対象に	中山 健一	324
東京学芸大学国語国文学会 学芸国語国文学 四五(一三・三)	人称表現としてのノダ文	井島 正博	二四
東京学芸大学国語国文学会 学芸国語国文学 四五(一三・三)	文法を説明するときに提示する例文について	北澤 尚	332
東京学芸大学国語国文学会 学芸国語国文学 四六(一四・三)	―絵本、サラリーマン川柳、現代口語短歌など―	山室 和也	二二
同志社大学国文学会 同志社国文学 八一(一四・一一)	文法教育における「連文」の扱い	藤井 俊博	二七
同志社大学 人文学 一九四(二・一)	位置づけと有効性について	藤井 俊博	二七
同志社大学 人文学 一九四(二・一)	発心集の「けり」のテキスト機能	藤井 俊博	二七
同志社大学 人文学 一九四(二・一)	使い分け	藤井 俊博	二七
同志社大学 人文学 一九四(二・一)	沙石集の「けり」のテキスト機能	藤井 俊博	二七
同志社大学 人文学 一九四(二・一)	―梓つけ表現の多様化―	藤井 俊博	二七
東北大学文学研究科研究年報 六二(二・一〇)	文に切る ―文成立の外形的側面	大木 一夫	二四八
東北大学大学院文学研究科言語科学専攻 言語科学論集 一七(二二・一一)	「むけ」と「ばかり」にみられる「限定」と「原因理由」の関わり	蔡 薫婕	339
東北大学大学院文学研究科言語科学専攻 言語科学論集 一八(二四・一一)	状態変化動詞との共起から見る複文における程度表現	蔡 薫婕	344
獨協大学大学院 獨協大学 日本語教育紀要 九(二四・三)	―「分」「くら」を中心に―	蔡 薫婕	344
獨協大学大学院 獨協大学 日本語教育紀要 九(二四・三)	名詞述語文と形容動詞述語文における「ガ」名詞句	浅山 佳郎	350
獨協大学大学院 獨協大学 日本語教育紀要 九(二四・三)	準体句述部に出現する文語形助動詞をめぐって	樋野 幸男	357
獨協大学大学院 獨協大学 日本語教育紀要 九(二四・三)	―『中華若木詩抄』にみえる助動詞の様相から―	樋野 幸男	357
獨協大学大学院 獨協大学 日本語教育紀要 九(二四・三)	形態的に対立する自動詞・他動詞の徴表の位置関係	渡辺 裕司	三三
長沼スクール 日本語教育研究 五九(三・一〇)	現代語「ばかり」の用法の多様性について	朱 琳	360
長沼スクール 日本語教育研究 五九(三・一〇)	―動詞(句)＋「ばかり」を中心に―	朱 琳	360
名古屋大学 Nagoya Linguistics (名古屋言語学研究所) 七(一三・一一)	現代日本語における形容詞的動詞について	チフトウチ ウツムハン	367
名古屋大学 Nagoya Linguistics (名古屋言語学研究所) 七(一三・一一)	―連体修飾の「テイル」・「タ」形を中心に―	チフトウチ ウツムハン	367
名古屋大学大学院国際言語文化研究科 言語文化論集 三五(一三・一一)	第二言語習得データから見た日本語のモダリティにおける「行為拘束的モダリティ」と「認識的モダリティ」の関係についての考察	堀江 瑞穂	372
奈良女子大学 日本アジア言語文化学会 叙説 四〇(一三・三)	副詞「たしかに」と終助詞	刀 柝 睦 月	380

南山大学国際教育センター紀要 一四 (二四・一)	文脈から考える「〜てくる」構文	竹田和代	384
南山大学大学院 南山言語科学 八 (二二・一)	日本語の結果複合動詞における脱使役化	張楠	390
南山大学大学院 南山言語科学 八 (二二・一)	日常会話における助詞の使用・不使用の選択について	鈴木菜摘	400
新潟大学 人文科学研究 一三三 (二二・一〇)	統語法から見た日本語動詞の活用体系	江畑冬生	410
西日本国語国文学会 西日本国語国文学 一 (一四・七)	古代日本語におけるモノナリ文と連体ナリ文の構造的差異について	勝又隆	二六一
二松学舎大学論集 五六 (一三・三)	現代日本語における動詞の〈終止形準体法〉について	島田泰子	420
日本エドワード・サピア協会研究年報 二八 (二四・三)	形態素タイプの認定 —日本語動詞における屈折を例に—	江畑冬生	430
日本語学会 言語研究 一四五 (二四・三)	「Vてみる」条件命令文のモダリティと再分析構造	森英樹	436
日本語文化研究会 日本語文化研究 一七 (三二・一)	修飾語となる「所」フレーズの日本語訳について	張偉莉	449
日本語文化研究会 日本語文化研究 一七 (三二・一)	動詞「めぐる」から複合辞「めぐって」への連続 —『太陽コーパス』を資料として—	真仁田栄治	454
日本語／日本語教育研究会 日本語／日 本語教育研究 五 (二四・五)	設定時点が未来の「効力持続」 —未来まで広がる「〜ている」の用法について	江田すみれ	460
日本語／日本語教育研究会 日本語／日 本語教育研究 五 (二四・五)	知覚・思考・判断・意志を表す「文末名詞文」の使用実態 —コロケーションから文型へ—	澤田浩子	465
日本語／日本語教育研究会 日本語／日 本語教育研究 五 (二四・五)	可能を表す「見える」「見られる」の用法別使用傾向 —コーパスに見る母語話者と非母語話者の使用の異なり	森敦子	474
日本語／日本語教育研究会 日本語／日 本語教育研究 五 (二四・五)	「しよ」の意味・用法 —「非難」・「願望表出」の「しよ」—	山下由美子	482
日本心理学会 心理学研究 八五・一 (二四・六)	意味的バイアスを持つ日本語両義文の処理に及ぼすカンマの影響	新国佳祐	491
日本文芸研究会 文芸研究—文芸・言語 ・思想— 一七六 (二三・九)	近世後期江戸語終助詞「は」の意味	黄孝善	494
日本文体論学会 文体論研究 五九 (二二・二)	『枕草子』日記的章段における引用「と」「など」の使い分け —「淑景舎」春宮にまゐりたまふほどの事など—を例として—	立川和美	501
東アジア日本語教育・日本文化研究学会 東アジア日本語教育・日本文化研究 一七 (二四・三)	二格の名詞と動詞とのくみあわせ —奥田靖雄一九六二—ありかのむすびつき—にまなぶ—	趙彦志	508
東アジア日本語教育・日本文化研究学会 東アジア日本語教育・日本文化研究 一七 (二四・三)	文構造からみる「は」と「が」 —文の成分を中心として—	趙春英	516
一橋大学語学研究室 言語文化 五〇 (二二・二)	「のだ」の教え方に関する一試案	庵功雄	527
一橋大学大学院 言語社会 七 (二二・三)	大学生の日常会話における形容詞の語幹終止用法	原田幸一	534
広島大学大学院教育学研究科紀要 第二 部 (文化教育開発関連領域) 六三 (二四・二)	日本語における指示詞の省略可能性 —名詞の種類と述語による影響の観点から—	陳熾如	541

広島大学大学院教育科学研究科紀要 第一部 (文化教育開発関連領域) (二四・一一)	文副詞「もちろん」の意味	陳若婷	545
福岡大学研究部論集 A : 人文科学編 二二・四 (一一・一)	A Preliminary Study on the Sluicing Construction in Japanese	Masuyo Ito	550
福岡大学研究部論集 A : 人文科学編 二二・四 (一一・一)	Comparatives and Degree Nominals	Fumio Mohri	554
藤女子大学国文学雑誌 八九 (二・三・一一)	続・キリシタン資料における下二段活用動詞「アイツク」について	漆崎正人	一六八
文教大学国文 四一 (一三・三)	「ッテ文」について	近藤研至	560
北陸古典研究会 北陸古典研究 二八 (二・三・一一)	「ソアヘズ」と「ヤラズ」——「言ふ」「書く」等に下接する場合を中心に——	近藤明	一七六
北陸古典研究会 北陸古典研究 二九 (二・四・一一)	「モン」「モコン」の表す「危惧」の性質をめぐって (七)	近藤明	一八三
北海道大学 メディア・コミュニケーション研究 六七 (一四・一一)	「東京に行く」と「東京へ行く」	山下好孝	567
北海道大学大学院文学研究科研究論集 一四 (一四・一一)	疑問文の文末表現の使用に関する一考察	馬穎瑞	572
松山大学総合研究所 言語文化研究 三四・一 (二四・九)	不定表現による調整行為とその背景条件	久保進	579
萬葉学会 萬葉 二二七 (二四・五)	畸形の文法——近代短歌における已然形終止法の生成——	品田悦一	一八六
武蔵野大学グローバル教育研究センター (Global Communication 3 (一四・一二))	日本語の二重否定——「〇〇なくない？」の用法と意味——	張莉	***
明治大学日本文学 三九 (一三・一六)	「連体修飾」考——「の」をめぐって——	市原乃奈	一九六
明治大学日本文学 四〇 (一四・三)	『金色夜叉』に見る述語部否定構造の文法化	許哲	601
明治大学大学院 文学研究論集 四〇 (二四・二)	複数の否定要素からなる述語部構造の特質——『二葉亭四迷』『浮雲』を資料として——	許哲	609
山口大学人文学部国語国文学会 山口国文 三六 (一一・三)	「くになる」と「くとなる」の使い分け——アンケート調査に基づく考察——	作間大樹	616
立教大学日本文学 一一〇 (二三・七)	古典語複合動詞の後項「あふ」について	徳本文	二〇四
立正大学国語国文 五一 (一三・三)	譲歩、譲歩条件を表すトコロデ	角田三枝	622

*……論説資料のページ数の制約により、掲載できなかった長大な論文

***……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第二分冊（語彙）

語彙

愛知大学文学論叢 一五〇（二・四・七）	複合形容詞の研究 — 対義形容詞の状況から —	漆谷 広樹	1
愛知学院大学論叢 文学部紀要 四二（三・一〇）	文字を数ふる法師	田島 統堂	13
愛知教育大学大学院国語研究 二二（三・一〇）	『仮名文字遣』の語彙 — 文明十一年本と中古文学語彙との関連 —	高瀬 正一	19
青山学院大学日本文学会 青山語文 四三（一・三・三二）	現代日本語における漢語接辞研究の概観	山下 喜代	一
跡見学園女子大学文学部紀要 四八（三・一〇）	月経の名称 — 現代の月経 —	鈴木 明子	七
跡見学園女子大学文学部紀要 四九（四・一〇）	「ひとわらへ」考 — 『源氏物語』に至ることばの展開 —	植田 恭代	一四
上田女子短期大学紀要 C D I R O M 版 三七（四・一）	明治初期出版の啓蒙的絵入単語集の語彙の様相	大橋 敦夫	26
宇都宮大学教育学部紀要 六四—一（二・四・一〇）	現代日本語「自己実現」の特徴を裏証する基礎データの提示 — 質的データの量的把握による整理 —	佐々木 英和	35
桜美林大学 桜美林論考 人文研究 人文学系 / 芸術・文化学系 四（二・三・一三）	「ゆずりは」の文化史と名称の由来	寺井 泰明	48
大分大学国際教育研究センター年報 二〇—二年度（二・四・二二）	「丁寧な」についての一考察	武原 美穂	58
大阪大学国語国文学会 語文 一〇〇・一〇一（三・三・二二）	トニカクの語史 — 複合辞用法の成立過程 —	清田 朗裕	二二
大阪大学古代中世文学研究会 詞林 五四（三・一〇）	古代語のソ系列 — 観念指示の検討を中心に —	藤本 真理子	二七
大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究 二二（二・四・三二）	類義語を共起関係から紐解く — コーパス分析を用いた指導の有用性 —	久保 圭	61
大阪教育大学 学十国文 五七（二・四・一〇）	名詞「冬」が喚起するイメージ性 — 絵とその説明文を手がかりに —	井上 博文	66
大阪教育大学国語教育学会 国語と教育 三八（三・三二）	ペットの名前の命名システム — 人とペットの関係の変化によって多様化した名前 —	方言（現代語）ゼミナール	83
大阪教育大学国語教育学会 国語と教育 三九（四・三二）	焼酎の銘柄の命名システム	方言（現代語）ゼミナール	90
大阪府立大学 言語文化学 研究 言語情報編 九（二・四・三二）	現代日本語反語の専用形式 — 「たまるか」「ものか」（人名詞）があるか —	案野 香子	96
大阪府立大学 日本語文化学会 百舌鳥 国文 二五（一・四・三二）	万葉歌の「邊」の用法について	李 敬美	三三
岡山大学言語国語国文学会 岡大國文論稿 四一（四・三二）	ヤラレル／ヤラレタの意味用法の史的変遷	豊田 圭子	105
沖縄外国文学会 Southern Review 27（二・一・一〇）	二つの異形態動詞「Xじる」と「Xする」のジャンルの分布とコロケーション特徴：「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を利用した研究	金城 克哉	110
お茶の水女子大学国語国文学会 国文 一一九（二・三・七）	J-POPにおける日本語の研究 — 現代流行歌の歌詞に見る特徴 —	小野澤 志保	118

お茶の水女子大学人文科学研究 九 (二・三)	外来語に関する研究動向 ― 使用意識と言語接触の視点から ―	堀切 友紀子	124
お茶の水女子大学 比較日本学教育研究センター研究年報 一〇(一四・三)	味を表すことば ―「おいしい、うまい、まずい」の多義性と構文の特徴―	中島 晶子	131
学習院大学国語国文学会誌 五六 (二・三)	御伽草子二五作品における人称詞「殿」の用法	田澤 志人	四〇
学習院大学国語国文学会誌 五六 (二・三)	感情形容詞の使用実態 ― 属性形容詞との対比を通して―	村上 佳恵	135
学習院大学国語国文学会誌 五七 (二・四)	古代語体系から近代語体系への移行期における和漢対立語の意味変化 ―「のがる」「まぬかる」を例として―	久保 香珠	四七
学習院大学上代文学研究 三九 (一四・三)	ササメクとササヤク	我妻 多賀子	五六
学習院大学人文科学研究所 人文 一〇 (二・三)	箕作麟祥訳『仏蘭西法律書・訴訟法』の漢語訳語 ― 法律用語の訳出傾向―	南雲 千香子	143
学習院大学文学部研究年報 五九 (三・三)	唐詩詩語「枕」の漢文訓読語としての「枕をそばだてて(聞く)」(側臥)	安部 清哉	六八
学習院大学大学院日本語日本文学 九 (三・三)	遺骨に関わる語彙「かばね」と「ほね」「こ」 ―『源氏物語』を中心に―	塩見 優	九七
学習院大学大学院日本語日本文学 一〇 (二・四)	『源氏物語』において「あえか」という言葉が果たした役割	吉村 研一	一〇二
金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要 五 (三・三)	形容詞系難易表現の史的変遷をめぐって	近藤 明	一〇九
金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要 六 (四・一)	「迷惑」の意味変化 追補 ― 松井利彦氏・横川澄枝氏の論との関連から―	近藤 明	二五
関西学院大学日本文学会 日本文藝研究 六五・二(一四・三)	俗語訳成立史(下)	田中 康二	二九
神田外語大学言語教育研究所 言語教育研究 二四(三・一)	Assimilation of English Vocabulary into the Japanese Language	Keith Barrs	151
関東学院大学文学部紀要 一三〇 (二・七)	文学作品における時刻表現の考察 ― 現代の時代・歴史小説―	多ヶ谷 有子	157
岐阜聖徳学園大学国語国文学 三三 (三・三)	小学生用国語辞典はどのように作られているか	小田 勝	180
岐阜聖徳学園大学国語国文学 三三 (四・三)	南古童話のオノマトペを語彙と形式から考える	濱千代 いづみ	187
汲古書院 汲古 六二(二・二)	日本古代史料に見える「揚名」の語義 ―『孝経』の原義との関係―	渡辺 滋	二八
京都大学文学部国語国文学研究室 国語国文 八二・四(三・四)	動詞「申す」から感動詞「モウシ」へ	深津 周太	二三
京都大学文学部国語国文学研究室 国語国文 八二・五(三・五)	形態的特徴から見た古代日本語動詞の増殖過程	釘貫 亨	二四〇
京都産業大学日本文化研究所紀要 一九 (二・二)	『朝鮮王朝實録』に散見する日本の地名について	趙 燧熙	二二
京都産業大学日本文化研究所紀要 一九 (二・三)	『風土記』に見られる「住」と「居」について	金 裕卿	二二
京都西山短期大学 西山学苑研究紀要 九(二・三)	キャラクターの属性を示す造語成分の考察 ―『それいけ!アンパンマン』におけるキャラクターの擬人化を中心に―	福田 亜紀	195

國學院大學 國學院雜誌 一一五—二 (一四・一一)	俗語になった漢語	今野 真二 一九三
國學院大學日本語教育研究 五 (一四・一三)	ビジネス文書における副詞「あらかじめ」の用法 —企業ウェブサイトと内容証明郵便を中心に—	諸 星 美智直 335
國學院大學日本語教育研究 五 (一四・一三)	新聞記事における造語成分「含み」 —日本経済新聞と朝日新聞の比較を通じて—	橘 佳代子 342
國學院大學院友学術振興会 新國學 五 (一三・一〇)	古代語「あづま」考 —『古事記』『日本書紀』を 通して—	菅野 雅雄 二〇一
国士館大学国文学会 国文学論輯 三四 (一三・一〇)	歌謡曲の表現 —性差・役割語・類型—	中村 一夫 二〇〇 二〇〇一年度・ 二〇〇二年度日 本語学ゼミ生
国士館大学国文学会 国文学論輯 三五 (一四・一三)	現代日本語における外来語の量的推移と基本語化	中村 一夫 二二七 二〇一三年度日 本語学ゼミ生
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビュー 三三三 (一三・一〇)	Remarks on the Verb <i>suru</i> in Old Japanese —A Corpus Based Study	Blake FRELLESVIG 351
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビュー 四一— (一三・一〇)	国語学者浅野信の言語規範意識 —昭和一〇年の 「全然このお菓子好きだわ」について—	新野 直哉 364
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビュー 五一— (一四・一〇)	言語動態を多角的にとらえる —コーパス調査と 全国調査の複合活用—	相澤 正夫 368
国立国語研究所論集 六 (一三・一一)	副詞における程度の意味発生の過程の類型	鳴海 伸一 373
古代文学研究会 古代文学研究 第二次 一三三 (一四・一〇)	『紫式部日記』の「うとまし」「すさまじ」 —『夢』を用いた比喻表現との関わりから—	加藤 直志 二三四
駒澤大學 駒澤國文 五〇 (一三・一一)	『狭衣物語』の本文 —紫式部の用いた「あえか」 の語をめぐって—	湯浅 幸代 二一九
埼玉大学紀要 教養学部 四九— (一三・九)	感情表現の体系について	小出 慶一 382
静岡大学人文社会科学部社会学科・言語 文化学科研究報告 人文論集 六三— (一三・一)	日本語の基本教詞のナナ化とキニュー化について —言語変化資料の整理と考察—	城岡 啓二 389
静岡県立立大学短期大学部 言語文化研究 二二 (一三・三)	ブラウン『会話日本語』の助詞を伴わない人称詞 について	本間 美奈子 409
実践女子短期大学日本語コミュニケーション 学科 歌子 二二 (一三・二)	多義語の出現環境とその辞書記述 —「あやし」 による予備調査—	大塚 みさ 414
社会言語科学会 社会言語科学 一六一 (一三・九)	親族間で用いられる他称詞の運用 —話題の人物 を捉える視点と表現形式—	小森 由里 419
首都大学東京人文学部 人文学報 四七二 (一三・三)	上代語アク、ミ	小川 定義 428
首都大学東京人文学部 人文学報 四七七 (一三・三)	副詞「ちよつと」と「少し」の意味	大島 資生 448
首都大学東京人文学部 人文学報 日本 文学 四九一 (一四・三)	現代日本語オノマトペ「くぐる」「ぐるぐる」の 意味	大島 資生 457
上智大学 人間学紀要 四三 (一四・一)	感動という語で理解されていること	酒井 一郎 二三九
昭和女子大学近代文化研究所 学苑 八七九 (一四・一)	ポップカルチャーを日本語習得へ —マンガの日 本語を軸に—	鈴木 洋子 467
昭和女子大学大学院日本文学紀要 一三三 (一三・三)	万葉の《香り》 —比喩の意味での「かぐはし」を 中心に	島村 良江 二五二

白百合女子大学研究紀要 四九 (二・二二)	太平記の擬音語・擬態語 平家物語との比較を交えて	中里 理子 474
成城大学文芸学部 成城文芸 一三七 (二四・二)	複合動詞の森 辞苑閑話・五	工藤 力男 二六三
清泉女子大学人文科学研究所紀要 三五 (二四・三)	『ものわりのはし』付録「ことばのよだめ」 語彙分析 一八七四年翻訳出版の化学書にみる 平仮名和語の造語力	松本 隆 486
全国大学国語国文学大会 文学・語学 二二一 (一四・二)	語彙と語彙論	田中 章夫 495
専門日本語教育学会 専門日本語教育研 究 一六 (一四・二)	社会科学系基礎文献における分野別語彙 共通語 彙 學術共通語彙の特定 定量的基準と教育現 場の視点の統合	今村 和宏 502
専門日本語教育学会 専門日本語教育研 究 一六 (一四・二)	介護福祉士国家試験におけるカタカナ語の特徴	中川 健司 506
拓殖大学語学研究 一三〇 (一四・三)	新聞記事における「勝ち」を表す動詞の意味用法 「破る・下す・倒す」の中心義と拡張義をめぐ って	遠藤 裕子 509
筑紫学園大学・筑紫学園大学短期大 学部紀要 八 (三三)	ニックネームと語形成…カテゴリー分析による命 名プロセス	緒方 隆文 523
筑紫学園大学・短期大学部 人間文化 研究所年報 二五 (二四八)	命名プロセスとしての複合名詞 カテゴリー分 析	緒方 隆文 530
中国四国教育学会 教育学研究紀要 五八 (三三)	「学ぶ」「学習する」「勉強する」 意味分析と語 用論	林 伸一 538
中部大学 人文学部研究論集 三三 (二四・七)	和名類聚抄・名古屋博物館本の地名 高山寺 本と対照して	蜂矢 真郷 二六九

(第三分冊増刊に続く)

***…著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

(51-3)

第三分冊増刊（語彙）

語彙（承前）

筑波大学地域研究 三四（一三・三）	「同性愛と『同性恋』の成立と定着 — 近代の日中語彙交流を視点に—	清地 ゆき子	1
筑波大学大学院 筑波応用言語学研究 二一（一四・一）	Japanese idiom variants in corpus data and phraseological dictionaries	Priscilla Ishida	13
筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻 文芸言語研究 言語篇 六四（一三・一〇）	動詞派生か Root 派生か — 分散形態論による連用形名詞の分析—	田川 拓海	20
東京外国語大学大学院 言語・地域文化研究 一九（一三・三）	日本語におけるオノマトペの動詞修飾について — リ語尾のオノマトペに焦点をあてて—	黄 慧	28
東京学芸大学国語国文学会 学芸国語国文学 四五（一三・三）	『雑字類編』と「納日」	荒尾 禎秀	—
東京女子大学日本文学 一一〇（一四・三）	女房詞の研究 — 『御湯殿上日記』を中心として—	北澤 綾那	33
東京都立大学国語国文学会 都大論究 五〇（一三・六）	成立過程から見た高程度を表す評価的な程度副詞の特徴 — 「チカゴロ」を一例として—	田和 真紀子	37
同志社大学国文学会 同志社国文学 七八（一三・三）	歌語「真木柱」の変遷 — 『源氏物語』における機能—	岩坪 健	七
同志社大学国文学会 同志社国文学 七八（一三・三）	『とはずがたり』における「言ふ」の意味・用法	入江 さやか	43
同志社大学日本語・日本文化研究 一一（一三・一）	『言海』の音象徴語	平 弥悠紀	49
同志社大学日本語・日本文化研究 一一（一四・三）	『日本大辞書』の音象徴語	平 弥悠紀	60
同志社女子大学日本文学 二六（一四・六）	「病院」の成立	八尾 美咲	二三
同志社女子大学大学院文学研究科紀要 一四（一四・三）	青地林宗による時間語彙の創出	吉野 政治	二三
東北大学文学会 文化 七七・三・四（一四・三）	複合字音語基の「兼用」について	斎藤 倫明	74
東北大学文学研究科研究年報 六二（一三・三）	拘束形式の複合字音語基の位置づけに関して — 従来からの複合字音語基分類との関わりで—	斎藤 倫明	84
東北大学文学研究科研究年報 六三（一四・三）	複合字音語基用言類の低位分類 — 漢語動名詞との関わりで—	斎藤 倫明	101
東北大学大学院文学研究科言語科学専攻 言語科学論集 一七（一三・一）	「そこらへん（指示代名詞+ラヘン）」の共通語化 — 近代における使用地域の拡大について—	佐藤 亜実	116
東北大学大学院文学研究科言語科学専攻 言語科学論集 一八（一四・二）	色彩語メタファー表現の特徴 — コーパスによる共起語の考察—	王 軒	122
徳島大学総合科学部 言語文化研究 二一（一三・一）	「家族」に関する日本語語彙のカテゴリー化	山田 仁子	128
徳島文理大学文学部 文学論叢 三二（一四・三）	北原白秋『桐の花』論 — 色彩語のバリエーションを中心として—	坂寄 圭太	141
豊田工業高等専門学校研究紀要 四六（一四・一）	平家物語巻九「越中前司最期」の「君」の用法	伊藤 一重	三二

長野県短期大学紀要 六七 (二二二)	擬音語・擬態語の考察 — 『注文の多い料理店』を通して—	清水登	148
名古屋大学 Nagoya Linguistics (名古屋言語研究) 八 (一四・一五)	「漢語形容詞」の用法について — 連体修飾の「テイル」タ「ナ」の形式を中心に—	チフトウチ ウツムハン	152
名古屋大学言語文化研究会 ことばの科学 二六 (二二二・二二)	漢語サ変動詞「離Nする」の意味と構文	張善実	158
名古屋大学留学生センター 日本語・日本文化論集 二〇 (二二・二三)	「すき」と「からい」の意味について	加藤恵梨	168
名古屋大学留学生センター 日本語・日本文化論集 二〇 (二二・二三)	「重なる」「ダブる」「かぶる」の類義語分析	李澤熊	176
名古屋大学留学生センター 日本語・日本文化論集 二〇 (二二・二三)	「言い訳考(その二)」	榎山洋介	185
名古屋大学留学生センター 日本語・日本文化論集 二二 (四三)	「気持ち良い」と「気持ち悪い」の意味分析	加藤恵梨	195
名古屋大学大学院国際言語文化研究科 言語文化論集 三五―一 (三二・一)	コーパスを利用した複合動詞「V1+抜く」の意味分析	杉村泰	201
名古屋大学大学院国際言語文化研究科 言語文化論集 三五―二 (四三)	コーパスを利用した複合動詞「V1+抜く」と「V1+抜ける」の意味分析	杉村泰	209
名古屋大学大学院国際言語文化研究科 言語文化論集 三六―一 (四二)	「余俗」と「ゆとり」の意味分析 — ベースとプロファイルの観点から—	李澤熊	216
奈良女子大学日本アジア言語文化学会 叙説 四〇 (一三・一四)	萬葉後期の翻訳語 — 正倉院文書を通して—	奥村和美	三八
奈良女子大学日本アジア言語文化学会 叙説 四〇 (一三・一四)	古事記「耳」字考	土居美幸	四七
奈良女子大学日本アジア言語文化学会 叙説 四〇 (一三・一四)	『古事記』における「生」と「産」 — 上巻を中心に—	阪口由佳	五五
奈良女子大学日本アジア言語文化学会 叙説 四〇 (一三・一四)	「寐」の行方 — 「寝」「眠」との関係	原口幸乃	六一
南山大学日本文化学科論集 一三 (三二)	日本語母語話者の名前の性別判断について	六川雅彦	222
南山大学日本文化学科論集 一四 (四二)	日本人の中性名に見られる音韻的・意味的特徴	六川雅彦	228
南山大学大学院 南山言語科学 八 (三二)	形容詞の類義語から見ることばの周辺的な意味について	小木曾恵美	235
新潟大学教育学部国語国文学会 新大國語 三六 (一四二)	「アメリカンフットボール」の略語は「アメフト」か「アメフット」か — 音韻論的考察と新聞・雑誌記事における実態の検討—	岡田祥平	246
日中言語研究と日本語教育研究会 日中言語研究と日本語教育 五 (二二・二〇)	時間副詞「イッソモとツネニ」について	孫佳音	261
日本語教育研究会 日本語／日本語教育研究 五 (二四・二五)	コーパスを活用した日本語教師のための類似表現調査法	砂川有里子	266
日本語教育研究会 日本語／日本語教育研究 五 (二四・二五)	トルとモツの意味分析 — 「手にする」と「自分のものにする」の意味概念を中心に	ミースワン モンシチャイ	277
日本語教育研究会 日本語／日本語教育研究 五 (二四・二五)	新聞の中の混種語の使用実態からの一考察 — 語種構成の視点から	時岡範子	282
日本心理学会 心理学研究 八五―一 (二二)	尊敬関連感情概念の構造 — 日本人大学生の場合	武藤世良	287
日本大学文学部人文科学研究所 研究紀要 八七 (二四二)	大正・昭和戦前期日本外交におけるプロパガンダの性格について — 用語の問題を中心に—	中田崇	六八

日本大学文学部人文科学研究所 研究紀要 八八(二四・九)	心像性と親密度の高い日本語単語の身体―対象物相相互作用の評価	望月正哉 藤木賢太郎	293
日本中部言語学会 Ars Linguistica 20 (一三・一一)	最適候補選定モデルによる漢字略語の分析	塩本文夫	302
日本読書学会 読書科学 五六―一 (四・一〇)	オノマトペの単語認知過程における表記形態の影響	矢口幸康	308
日本比較文化学会 比較文化研究 一〇五(一三・一)	時間副詞に関する一考察 ―「即時性」を表す副詞を中心に―	江 雯 薫	312
日本比較文化学会 比較文化研究 一〇八(一三・一〇)	身体部位表現の概念研究	中島亨輔	318
日本比較文化学会 比較文化研究 一〇九(一三・一一)	時間副詞に関する一考察 ―「漸次性」を表す副詞を中心に―	江 雯 薫	325
日本比較文化学会 比較文化研究 一一〇(一四・一一)	日本人の「あし」の文化的考察 ―「ことば」からの考察―	栗山 緑	331
日本比較文化学会 比較文化研究 一一三(一四・一〇)	個人名となぞなぞに探る日本語に於ける「一」の属性と用法	清海 節子	338
日本比較文化学会 比較文化研究 一一三(一四・一〇)	「気」の日本語文化論(一) ―「気」の表現に見る文化論的特徴―	戸田 利彦	343
ノートルダム清心女子大学日本語日文学会 清心語文 一五(一三・九)	中古の副詞「おほかた」について ―おほかた・おほかたに・おほかたは―	星野 佳之	七八
梅花女子大学文化表現学部紀要 九 (二・一〇)	枕草子を主とした平安仮名文形容詞表 ―文体論に向けて―	中川 正美	八五
梅花女子大学短期大学部研究紀要 六一 (二・一〇)	感覚動詞の意味・用法 ―聴覚・嗅覚・味覚を表す動詞を中心に―	大谷 伊都子	349
梅光学院大学論集 四七(一四・一)	「結構」の広管用法出現時期における使用状況	播磨 桂子	356
東アジア日本語教育・日本文化研究学会 東アジア日本語教育・日本文化研究 一七(一四・三)	漢文訓読による「トコロ」の名詞化辞の用法の成立	劉 洪 岩	365
東アジア日本語教育・日本文化研究学会 東アジア日本語教育・日本文化研究 一七(一四・三)	多義的な陳述副詞の概念形成における差異化	王 王 冲	373
東アジア日本語教育・日本文化研究学会 東アジア日本語教育・日本文化研究 一七(一四・三)	日本語における再帰表現 ―「自分」、「自己」、「自身」、「自ら」を中心に―	金 晶	381
兵庫県立大学神戸学園都市キャンパス学術研究会・兵庫県立大学政策科学研究所周刊論集 四八(一二・三)	ニホン英語 (Open Japanese) の類型化研究(語順編)	末 延 岑 生	393
広島大学国語国文学会 国文学攷 二八(一三・六)	聖澤文庫本『豆相記』に於ける「矣」字の用法についで	橋村 勝 明	九二
広島大学国語国文学会 国文学攷 三二(一四・六)	大分県立先哲史料館蔵『大友記』の「イ」字訓「イマン」について	橋村 勝 明	九七
広島大学国際センター紀要 四 (二・一〇)	和語系接頭辞と漢語系接頭辞	田村 泰 男	407
広島大学留学生教育 一七(一三・三)	漢語の造語システムを再考 ―外国人が見た学習用の分類法	Shedy N. Jandra	413
広島大学大学院 論叢 国語教育学 復刊四(一三七)	『赤い鳥』鈴木三重吉童話作品における二人称代名詞	山田 実 樹	421
広島大学大学院 論叢 国語教育学 復刊四(一三七)	日本国語大辞典(Japan Knowledge 版)所収の連体詞 ―語の成り立ちに注目して―	刀田 絵 美 子	1011

広島女学院大学日本文学会 国語国文学誌 四四(一四・二)	上代・中古における「具」字の動詞の用字法 —漢字受容史の観点から—	柚木靖史	一〇七
広島女学院大学大学院言語文化論叢 一七(一四・三)	「フライベート」な十名詞」と類意表現との使い分け	渡邊 ゆかり	426
フェリス女学院大学国文学会 玉藻 四七(一三・二)	船を守護する神霊と「いはひ」—万葉歌に見える「斎祀」「斎折」の文字列をめぐって—	松田 浩	二〇〇
フェリス女学院大学国文学会 玉藻 四八(一四・三)	シソーラス意味分類体系から見た昭和語彙(雑誌九十種)から平成語彙(雑誌七〇誌)への意味領域上の語彙変化	安部 清哉	441
フェリス女学院大学国文学会 玉藻 四八(一四・三)	「燕」語形ノート	勝田 耕起	二八
福岡国際大学 紀要 三一(一四・三)	日本語教育史における入門期教科書の基礎語彙Ⅱ 『国際文化振興会の事業概要と『日本語基本語彙』及び情報局の三百語』	占部 匡美	448
福岡国際大学 紀要 三二(一四・七)	日本語教育史における入門期教科書の基礎語彙Ⅲ 『基礎語彙の必要性』	占部 匡美	454
佛教大学国語国文学会 京都語文 二〇(二二・一)	キコス・キカス・キコシラス・キコシメス・シラシメス	田中 みどり	二二
文化学園大学紀要 人文・社会科学研究 二二(一四・二)	「おかげ」と「せい」について —用例分析を中心に—	境 希里子	459
文献探究の会 文献探究 五一(二四・三)	上代文献における「託」と「憑」の分布	藤崎 祐二	二五二
北星学園大学 北星論集 五一(二二・九)	コーパスを利用したオノマトペのコロケーション考察 —「すつきり」の意味用法を中心に—	曹 金波	466
北海道大学大学院文学研究科研究論集 二二(一三・二)	平安文学の感覚・感情形容詞に関する研究 —『枕草子』を中心に—	劉 琳	473
北海道教育大学国語国文学会・札幌札幌国語研究 一八(二三・八)	「龍」に関することわざ —「龍」をどう捉えてきたか—	馬場 俊臣	481
北海道教育大学国語国文学会・札幌札幌国語研究 一九(二四・八)	「蛇」に関することわざ —「蛇」をどう捉えてきたか—	馬場 俊臣	485
北海道文教大学論集 一五(一四・三)	現代日本語の局面動詞「V-はじめる」 上代日本語における視覚の対象と現実／非現実領域 —「見む」に注目して—	小西 正人	492
美夫君志会 美夫君志 八七(二二・一)	「冥加ない」再考	小出 祥子	二五八
宮城学院女子大学大学院人文学会誌 一四(一三・三)	歌語「心のすゑ」 —院政期和歌における風景表現の一展開—	田島 優	一六六
武庫川女子大学国文学会 武庫川国文学 七八(一四・二)	「宇田」の語源と語義の変遷(二) —日本国内での展開を中心に—	樺沢 綾	一七五
明海大学大学院応用言語学研究科紀要 応用言語学研究 一五(一三・三)	ハワイと世界の外行語 —質問紙とグループにみる日本語使用—	井上 史雄	505
明治大学 学術研究論集 四(一四・三)	日本古代の王・王妃称号と「大王・大后」	金木 利憲	一八二
明治大学人文科学研究所紀要 七五(二四・三)	動物を救える助教詞「尾」について	吉村 武彦	511
明治大学大学院 文学研究論集 三九(二二・九)	「都度」考	王 鼎	521
桃山学院大学総合研究所 国際文化論集 四九(一四・三)	外来語接尾辞「ライク」	山西 正子	528
		村中 淑子	535

安田女子大学紀要 四一 (一三二)	教材「走れメロス」の語彙研究	河内昭浩	546
安田女子大学紀要 四二 (一四二)	教材「故郷」の語彙研究	河内昭浩	551
立正大学 大学院年報 三二 (一四三)	『古今奇談英草紙』唐話語彙検証 — 江戸中期小説における受容の様相を探る —	張海燕	一八七
立命館大学国際言語文化研究所 立命館言語文化研究 二五三 (一四二)	見聞記『航海日録』に見える「行頭」をめぐる — 幕末武士の近代語 —	浅野敏彦	556
立命館大学国際言語文化研究所 立命館言語文化研究 二五三 (一四二)	『航海日録』における施設語彙をめぐる — 語構成の観点からみる三字漢語 —	陶萍	561
立命館大学国際言語文化研究所 立命館言語文化研究 二五三 (一四二)	『航海日録』に見る玉虫の表現意識 — 外国地名表現からの一考察 —	湯浅彩央	570
立命館大学日本文学会 論究日本文学 九八 (一三五)	助数詞「匹」と「頭」の用法考察	陶萍	578
立命館大学文学部人文学会 立命館文学 六三〇 (一三三)	近代小説における助数詞「回」「度」「遍」の一考察	陶萍	585
龍谷大学国文学会 国文学論叢 五八 (二二)	「折り紙をつける」という言い方をめぐって	藤田保幸	一九六
龍谷大学 龍谷紀要 三四二 (一三三)	The Enigma of Japanese in English Boutique Words for the Culturally Savvy	Frank E. DALTON	591
和歌山大学教育学部紀要 人文科学 六四 (一四二)	日本語「み身・表」の語史	柏原卓	597
早稲田大学国文学会 国文学研究 一七〇 (一三六)	嗅覚表現自動詞ニホフの意味の下降について — 「名詞+スル」との関連から —	池上尚	二〇八
早稲田大学大学院 教育学研究科紀要 別冊 二二二 (一三九)	接尾辞「クサシ」再考 — 古代・近代の使用状況から —	池上尚	二二五

※※……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第四分冊 (文章・文体・音声・音韻)

一 文章・文体

愛知県立大学 説林 六一 (一四・三)	「自由間接言説」「体験話法」について — 全ての表現は潜在的に引用されている —	福沢 将樹	1
愛知県立大学 日本文化学部論集 国語国文学科編 五 (一四・三)	言語表現と虚構性について — 仮託と扮装 —	福沢 将樹	10
大阪市立大学 国語国文学部研究室文学史研究会 文学史研究 五四 (一四・三)	平安和文の会話文の「文体」をめぐって	西田 隆政	一
尾道市立大学 芸術文化学部 紀要 一二 (三・三)	小津安二郎『東京物語』における尾道方言使用の意味	灰谷 謙二	16
尾道市立大学 芸術文化学部 紀要 一三 (四・三)	続・「等時音律説」の基底 — 日本詩歌の理解のために —	寺 杣 雅人	七
学習院大学 人文科学研究 所 人文 一一 (三・三)	「お客様の声」における文体・語彙・内容の関連性	大谷 鉄平	21
京都大学大学院 歴史文化社会論講座紀要 一一 (一四・二)	漱石の修辭技巧 — 『虞美人草』における提喻の機能 —	薦野 記子	二
共立女子大学 文學藝術 三八 (二四・七)	文脈測定試論 — 三島由紀夫「橋づくし」を例として —	はんざわ かんいち	38
熊本大学教育学部国文学会 国語国文研究と教育 五一 (二二・二)	『上井寛兼日記』の九州方言的な記録語について — 『島津家文書』との共通の記録語を中心に —	神志那 郁	二二
熊本大学 文学部 国語国文学会 国語国文学研究 四八 (一三・二)	『交隣須知』対訳日本語の会話文体 — 文末表現形式の考察を通して	高橋 敬一	46
熊本大学 文学部 国語国文学会 国語国文学研究 四九 (一四・三)	宇治拾遺物語の話末形式句	高橋 敬一	二八
高知県立大学 紀要 文化学部編 六一 (三・三)	『上左日記』の言説分析 — 「和歌」と「地の文」の曖昧な関係性を焦点に —	東原 伸明	三四
國學院大學 國學院雜誌 一一五六 (二四・二)	鷗外の創作構文 — 『舞姫』『即興詩人』などの『…、あらず、…』 —	中村 幸弘	四一
国立国語研究所 国語プロジェクトレビュー 四一 (一三・三)	書籍サンプルの文体を分類する	柏野 和佳子	51
国立国語研究所論集 六 (二三・二)	中古和文における個人文体とジャンル文体 — 多変量解析による歴史的資料の文体研究 —	小林 雄一郎 小本 智信	57
国立国語研究所論集 八 (二四・二)	語りかける書きことばの表現	加藤 和佳子 柏野 幸彦	65
札幌大学文化学部 紀要 比較文化論叢 二八 (一三・三)	訓点資料としての『文選』における文選読み表記形式について	丸立 山岳彦 渡辺 さゆり	77
就実大学 表現文化学会 就実表現文化 七 (二三・二)	洋画字幕における女性キャラクターの終助詞	長谷井 直子	85
首都大学東京都市教養学部人文・社会科学系 / 東京都立大学 人文学部 人文学報 日本語教育学 四七二 (二三・三)	「CD」毎日新聞データ集に含まれるデータの特徴と使用上の注意点について	長谷川 守寿	91
上越教育大学研究紀要 三二 (一三・二)	文学テクストにおける人称とコミュニケーションの回路	野村 眞木夫	101

上代文学会 上代文学 一一二 (二・四)	『出雲國風土記』仁多郡三澤郷条について —その文体から—	廣岡義隆 四九
上智大学国文学会 国文学論集 四七 (二・四)	内田魯庵訳・翻訳小説『罪と罰』の言文一致文体 —「文」を指標とした文体分析—	小西 光 五六
信州大学国語教育学会 信大國語教育 二二(一・三三)	書儀・尺牘表現の受容 —平安初期漢文書簡の表 現を中心に—	西 一夫 六六
聖徳大学短期大学部国語国文学会 文学 研究 二四(一・三三)	『歎異抄』の文体と思想 —親鸞聖人の実像を求 めて—	古橋 恒夫 七一
創価大学日本語日本文学会 日本語日本 文学 二三(一・三三)	日本語と日本文化における〈見立て〉 —(相同性 を視野に入れて)—	守屋 三千代 109
千葉大学文学部日本文化学会 語文論叢 二九(一四七)	江戸東京語における自称オレの女性忌避	神戸 和昭 116
中京大学文学部紀要 四七・二(二・三三)	中世末期〜近世初期の公家日記の文体類型 —その成立過程および推移等に関する覚書—	後藤 英次 七八
東京女子大学日本文学 一〇九 (一・三三)	鎌倉時代の恵信尼文書の用語について —言語の 口語性—	金子 彰 八四
同志社大学国文学会 同志社国文学 八一(一四一)	梅棹忠夫の文章はなぜ明快なのか	大島 中正 123
常盤大学人間科学部紀要 人間科学 三一(一・三三)	尋常小學讀本における描写表現の位相	渡邊 洋子 128
新潟大学 人文科学研究 一三五 (二・四一)	『東山往来』の文章構造 —書簡文体と注釈文体 とを繋ぐ問答形式—	磯貝 淳一 九一
日本語文化研究会 日本語文化研究 一七(三三)	階層関係を表わす「た」 —小説テキストでの過 去を表わさない「た」の考察から—	上田 恭寿 140
日本語文化研究会 日本語文化研究 一八(三三)	「天声人語」における▼(飛び石)記号について	倉橋 求美 一〇五
日本中部言語学会 Ars Linguistica 20 (三・一一)	絵本における「語り」のスタイルシフト —視座 の同化と入り込み—	田村 敏広 150
日本文学協会 日本文学 六二・七 (二・四)	談義書・論義書における文体と表記	渡辺 麻里子 一七
姫路獨協大学外国語学部紀要 二七 (二・四)	言文一致体と現代日本語との関係性 翻訳『小公 子』にみられるオノマトペ表現の比較を通して	クロス 尚美 161
佛敎大学国語国文学会 京都語文 二〇 (二・一一)	西東三鬼の所謂「診療俳句」の文章心理学的解析 —平畑静塔の「診療俳句」との比較を中心として	北野 元生 二二三
宮城学院女子大学日本文学会 日本文学 ノート 四九(二・四七)	漢文的スタイルから漢字仮名交じり文へ —曾我 物語の場合—	田島 優 二三五
龍谷大学国際センター研究年報 二二 (二・三)	森鷗外「そめちがへ」の文章について —同時代 文語作品二、三との比較から—	藤田 保幸 169
龍谷大学国際センター研究年報 二二 (二・三)	森鷗外訳「新浦島」の文章について —デス・マ ス体をめぐって—	藤田 保幸 178
二 音声・音韻		
アクセント史資料研究会 論集 九 (二・一一)	『名目抄』所載の通秀点について	上野 和昭 一四三
アクセント史資料研究会 論集 九 (二・一一)	近世期における「つめる」「のむ」 —四つ仮名、 舌内入声音、連声の注記をめぐって—	坂本 清恵 一五四

茨城大学留学生センター紀要 一一 (二・一)	表記イノベーションが発音に与える影響 ―若年層日本語話者による「ヴ」単語読み上げ実験の結果から―	アントン・アンドレエフ	186
大阪大学 OUPFL, Osaka University Papers in English Linguistics 16 (二・一九)	HYPOCORISTIC FORMATION IN KANSAI JAPANESE	YUSUKE IMANISHI	190
大阪大学大学院 言語文化研究 三九 (三・二)	判定要求の質問文における疑問型上昇調とその音声的特徴	郡 史郎	203
お茶の水女子大学国語国文学会 国文 二二二 (一四・一一)	『日葡辞書』の開物長音表記とアクセントの相関 ―漢語の例を中心に―	竹村 明日香	215
香川大学教育学部研究報告 第一部 二二九 (二二・三)	終助詞「よ」「ね」の音調について ―日本語音声教育の視点から―	轟 下直靖子	223
岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 六二二 (一四・二)	いきものがかりの言語学2〜対句表現	山田 敏弘	228
九州大学国語国文学会 語文研究 一一八 (一四・一一)	テ形・音便・アクセント	笠間 裕一郎	233
京都大学文学部国語国文学研究室 国 語国文 八二一 (二二・二)	鎌倉時代における呉音声調の位相差 ―親鸞加 本を資料として―	佐々木 勇	二六一
京都大学文学部国語国文学研究室 国 語国文 八三四 (一四・四)	中国資料に見える室町時代のハ行子音音価の再 検討 ―『日本国考略』を中心に―	馬 之濤	二七一
杏林大学外国語学部紀要 二五 (三・三)	持続時間及び高さの変動が長音の知覚に与える影 響 ―中国語北方方言を母語とする日本語学習者 を対象とした調査報告―	嵐 洋子	243
金城学院大学論集 人文科学編 一〇二 (四・二)	Bernard Blochが聞いた日本語 ―母音の無声化 と脱落に焦点をあてて―	池田 菜探子	248
熊本県立大学文学部紀要 一九 (三・二)	発語失行者の発話分析とその発話方略	馬場 良二	253
群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学 編 六三 (一四・一)	平成生まれの日本語アクセント規則 ―音節優位 のリズム感―	柴田 知薫子	264
慶應義塾大学言語文化研究所紀要 四五 (四・二)	Formant frequencies as possible a correlate of Japanese accent	Yukiko Sugiyama	268
高知大学留学生教育 七 (二・三)	特殊仮名「エ」の甲類と乙類について ―中日の 音韻体系のつながりを中心に―	王 永萍	276
神戸大学文学部国語国文学会 国文論叢 四八 (四・三)	漢音声調における上声・去声間の声調変化 ―日本漢文の場合―	石山 裕慈	二八〇
國學院大學 國學院雑誌 一一五六 (二・二)	日本語教育現場における方言鼻濁音について	吉田 潤子	286
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビュー 四二一 (三・〇)	日本語話し言葉における複合境界音調の役割	小磯 花絵	298
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビュー 四二二 (四・二)	オンライン日本語アクセント辞書OJADの開発 と利用	峯松 信明	302
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビュー 五一 (四・一)	「ピッチアクセント体系」の多様性	窪 菌晴夫	306
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビュー 五一 (四・二)	連濁とオノマトペの畳語	テイモシー・ J・パンズ	310
国立国語研究所論集 六 (三・二)	日本語借用語における二種類の促音化	大滝 靖司	313
国立国語研究所論集 七 (二・五)	連濁生起の傾向と定着化	浅井 淳	325

国立国語研究所論集 七(一四・五)	Testing Rosen's Rule and Strong Lyman's Law	KAWAHARA Shingo	334
国立国語研究所論集 七(二四・五)	日本民謡の大規模音楽コーパスを用いた旋律の構造抽出	河瀬 彰宏	339
国立国語研究所論集 七(二四・五)	日本語と諸言語における借用語の重子音化	大滝 靖司	354
国立国語研究所論集 七(二四・五)	終戦前の辞典に示された複合動詞のアクセントをめぐって——帰納的記述と演繹的規範——	塩田 雄大	368
静岡大学人文社会科学部社会学科・言語文化学科研究報告 人文論集 六四・一一(四・一)	明治時代以降の「し川」の連濁と非連濁について	城岡 啓二	375
島根大学法文学部紀要言語文化学科編 島大言語文化 三六(一四・三)	講式譜本における長短記号	浅田 健太郎	一八六
筑波大学大学院 文芸言語研究 言語篇 六五(一四・三)	ピッチ動態からみたオノマトペ語末促音の性格	那須 昭夫	389
東京外国語大学 語学研究所論集 一八 (三・三)	言語音声の聴覚研究のためのツール構築	佐藤 大和	398
東京学芸大学紀要 人文社会科学系一 六五(一四・一)	四拍語における外来語アクセント規則と連母音	白勢 彩子	407
東京工業大学F.L.C言語文化研究会 F L.C言語文化論集 POLYPHONIA 6 (四・一)	日本語における外来語のアクセントパターンゆれ——ペアになるアクセントパターン——	長 こそえ	411
豊橋技術科学大学 雲雀野 三六 (二・三)	「南無阿弥陀仏」の発音について	氏 平明	419
名古屋大学言語文化研究会 ことばの科 学 二八(一四・一)	日本語アクセントの範疇知覚検証実験における端点の正規化について——ataを例に——	梁 辰	425
名古屋大学言語文化研究会 ことばの科 学 二八(一四・一)	日本語母音無声化判定の信頼性について——音響分析と聴取判定を基に——	蘇 迪 亜	433
名古屋大学留学生センター 日本語・日 本文化論集 二〇(二・三)	日本語リズムユニットと呼気の継続時間および総流量との関係——日本語母語話者とイギリス英語を母語とする日本語学習者との比較——	橋本 慎 吾	441
名古屋大学留学生センター 日本語・日 本文化論集 二二(二・四)	CVCV構造をもつリズムユニットに関する音響的および生理的分析	橋本 慎 吾	457
名古屋大学大学院 国際開発研究フォー ラム 四三(一三・三)	日本語におけるイントネーション型と終助詞機能の相関について	大島 大 義 和	470
新潟大学 人文科学研究 一三三 (三・一)	平曲譜本『吟譜』の息継ぎ点	鈴木 孝 庸	二〇〇
二松学舎大学日本漢文教育研究プログラ ム 日本漢文学研究 八(二・三)	四書の訓読における字音の諸問題——口語的字音から規範的字音へ——	佐藤 進	479
日本音響学会誌 七〇・一〇(二四・一〇)	母音のフォルマント分析——過程と仮定を知る——	廣谷 定 男	486
日本音声学会 音声研究 一七一 (二・四)	ソウル方言話者と慶尚道方言話者による日本語アクセント核のピッチ知覚——知覚の離散性に注目して——	稲田 朋 晃	490
日本語学会 言語研究 一四四 (一三・七)	A Corpus-Based Study of Geminate Devoicing in Japanese: The Role of the OCP and External Factors	SHIN-ICHIRO SANO SHIGETO KAWAHARA	495
日本女子大学国語国文学会 国文目録 五一(一三・一)	文楽における連声	坂本 清 恵	二〇七

日本比較文化学会 比較文化研究 一〇七(二二六)	日本語のスピーチにおけるポーズの規範 試案	高村 めぐみ	503
東アジア日本語教育・日本文化研究学会 東アジア日本語教育・日本文化研究 一七(二四・三)	日本呉音の江撰字について	権全 昌順	509
広島大学国語国文学会 国文学叢 二一九(二二・九)	親鸞自筆『西方指南抄』における漢音について	佐々木 勇	二二四
広島大学日本語教育研究 二五 (二四・三)	日本語アクセントの習得に必要な能力とは —英語母語話者を対象に—	高橋 恵利子	518
広島大学女子学院教員研究科紀要 第二 部(文化教育開発関連領域) 六三 (二四・二)	清原宣賢加點『春秋經傳集解』の反切注について	坂水 貴司	二二〇
広島大学女子学院 論叢 国語教育学 復 刊四(二二・七)	京都大学附属図書館清家文庫蔵『史記抄』清原宣 賢書写部分における漢字音の音形について	坂水 貴司	二二五
広島女学院大学日本文学会 国語国文学 誌 四三(二二・二)	サ変名詞を後部要素とする「二字漢語+二字漢語」 型複合名詞におけるアクセント句分割の生起要因	渡邊 ゆかり	522
フェリス女学院大学国文学会 玉藻 四八(二四・三)	首都圏在住女子大学生における場面別母音体系と パラ言語的要素に関する音響音声学的考察	齋藤 孝 亀井 里 加藤 主 奥村 紗 川口 ひ 奥村 か み	535
文京学院大学外国語学部・文京学院短期 大学紀要 一二(二二・二)	字音形態素「サン(山)」を後部要素とする派生語 の連濁について	鈴木 豊	553
文京学院大学外国語学部・文京学院短期 大学紀要 一三(二四・二)	字音形態素「チュウ(中)」と「ジュウ(中)」の関 係について	鈴木 豊	561
北海道教育大学語学文学会 語学文学 五二(一三・二)	『後奈良院御撰何尊』「ははには……」の謎々はハ 行頭字音の証拠たり得るか	吉見 孝夫	二二三
三重大学日本語学 二四(二二・六)	『倭訓栞』における仮字反	前田 由香	二三八
安田女子大学大学院文学研究科紀要 日 本語学日本文学専攻 一七(二二・三)	漢訳仏典の「引」注記と原節博士の機能	沼本 克明	二四四
龍谷大学 龍谷紀要 三五・二(二四・三)	落語「くっしやみ講釈」における話芸語り口の音 響分析	角岡 賢一	572

第四分冊増刊(方言)

方言

愛媛大学文学会 人文学論叢 一五 (二二・二二)	愛媛県公治市方言のアクセントについて	秋山英治	1
大分大学 国語の研究 三八 (二二・三三)	「豊日方言」の研究課題	日高貢一郎	9
大阪大学国語国文学会 語文 一〇二 (二四・二六)	テ形動詞に関する音韻規則の一般性と特殊性	黒木邦彦	14
大阪大学大学院 阪大社会言語学研究ノ 一ト 一一 (二二・三三)	高知県四万十市西土佐方言における準体助詞	野間純平	18
大阪大学大学院 阪大社会言語学研究ノ 一ト 一一 (二二・三三)	高知県四万十市西土佐方言における逆接表現	野間純平	23
大阪大学大学院 阪大社会言語学研究ノ 一ト 一一 (二二・三三)	高知県四万十市西土佐大宮における行為指示表現	酒井雅史	30
大阪大学大学院 阪大社会言語学研究ノ 一ト 一一 (二二・三三)	福岡市若年層方言における二つのゴトの形態統語的違い	原田走一郎	37
大阪大学大学院 阪大社会言語学研究ノ 一ト 一一 (二二・三三)	大阪方言における準体助詞ン・ノ・ノン —ノンの分布を中心に—	野間純平	42
大阪大学大学院 阪大社会言語学研究ノ 一ト 一一 (二二・三三)	兵庫県神戸市方言における条件言いさし形による 行為指示表現	酒井雅史	48
沖縄国際大学南島文化研究所紀要 南島 文化 三六 (一四・二二)	与論島方言のアクセント資料(一)	上野善道	55
沖縄国際大学日本語日本文学研究 一七二 (二二・三三)	南琉球・多良間島方言のオノマトへの形式	下地賀代子	66
学習院大学人文科学研究所 人文 二二 (二四・三三)	避難生活(震災原発等)による小中学生の日常言語 への影響 — 福島県南相馬市小高区における言語 意識調査 —	小林初夫 安部清哉	76
神田外語大学大学院 言語科学研究 一九 (二二・三三)	大井川上流域における言語変化 — 三〇年前の調 査結果との比較から —	木川行央	103
岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 六二一 (二二・三三)	岐阜方言のオノマトへ表現	山田敏弘	113
岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 六三一 (二四・一〇)	愛知県尾張地方都市町村史に見られる方言記述・ 研究	山田敏弘	120
九州大学国語国文学会 語文研究 一一六 (三二・二二)	レザノフ『日本語学習の手引き』第九章「会話篇 からみた一八世紀末石巻方言の敬語	江口泰生	126
京都大学言語学研究 三三三 (二四・二二)	大分県杵築市方言の名詞アクセント資料とその歴 史的考察	平子達也 五十嵐陽介	135
京都西山短期大学 西山学苑研究紀要 八 (二二・三三)	「サ詠嘆法」の研究史とその問題点 — 表現的特質 などに着目して —	濱中誠	151
金城学院大学日本語日本文化学会 金城 日本語日本文化 九〇 (二四・三三)	二〇世紀末の岐阜県美濃加茂市方言点描 — 山崎香織資料を分析して —	下野雅なつみ 安田彩香 神谷希	159

熊本大学文学部国語国文学会 国語国文学研究 四八 (一一・二)	阿蘇文書に見える九州方言的な中世記録語をめぐって	堀畑正臣	—
語彙研究会 語彙研究 一一 (二四・三)	一八世紀薩隅方言における現代共通語	駒走昭二	167
高知県立大学紀要 文化学部編 六一 (一・三)	琉球における呪詞・呪言と神歌の名称に関する比較言語学的考察	橋尾直和	171
甲南女子大学研究紀要 文学・文化編 四九 (一三・三)	Verb Inflection in Classical Gokayama Dialect	KUROKI Kunitiko	177
神戸大学留学生センター紀要 一九 (一三・二)	奄美大島瀬戸内町方言の格形式 ―二格・デ格相当形式を中心に―	齊藤美穂	187
神戸市外国語大学研究会 神戸外大論叢 六四・三 (二四・三)	京阪方言の比較 ―「のだ」、敬語、否定、引用の「と」、語尾のス・ル、擬古方言―	中井幸比古	198
神戸女子大学国文学会 神女大國文 二五 (二・四)	山口東部方言における条件表現形式「ト」	船木礼子 (橋本礼子)	214
国立国語研究所 国語研プロジェクトレビュー 五一 (一四・一〇)	奄美喜界島方言の親族語彙 ―お父さん・お母さん・お爺さん・お婆さん―	木部暢子	219
国立国語研究所 国語研プロジェクトレビュー 五一 (一四・一〇)	方言分布の変化をとらえた!	大西拓一郎	225
国立国語研究所論集 六 (二・三・二)	喜界島方言のアクセント資料(二)	上野善道	230
国立国語研究所論集 七 (二四・五)	ガ行鼻音の衰退過程とその要因について ―札幌と富良野の言語調査データを利用して―	南部智史 朝日祥夫 相澤正夫	247
国立国語研究所論集 七 (二四・五)	南琉球・多良間島方言の格再考 ―三格、N格を中心に―	下地賀代子	257
信州大学文学部 人文科学論集 文化コミュニケーション学科編 四七 (二・三)	終助詞を用いた推量表現 ―談話論による松本方言の分析―	沖裕子	269
信州大学 人文科学論集 一 (二四・三)	徳之島方言の音節頻度表から何が分かるか	沢木幹栄	276
大東文化大学紀要 人文科学 五二 (二四・三)	琉球古典音楽の詩歌の日・英・西語訳 III-2	田仲勉	280
筑波大学地域研究 三四 (一三・三)	「国語」論的視点からみた大正期日本の一地方における言語使用状況	一宮由布子	289
津田塾大学言語文化研究所報 二九 (二四・七)	東北方言に見られる無声化の方向性とその多様性について	橋本文子	300
東京大学言語学論集 三四 (一三・九)	三重県尾鷲市方言の複合名詞アクセントについて	平田秀	306
東京大学言語学論集 三四 (一三・九)	青森市方言の動詞化接尾辞「ガル」	大槻知世	317
東京大学言語学論集 三五 (一四・九)	日本語諸方言の四モーラ畳語を比較する試み	高山林太郎	322
東京大学言語学論集 三五 (一四・九)	福井県あわら市のアクセント分布	松倉昂平	343
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 アジア・アフリカの言語と言語学 七 (一三・三)	地域差に基づく淡路方言の下位区分の試み	中澤光平	350
東京外国語大学国際日本研究センター 日本語・日本学研究 三 (一三・三)	Anticausativization in the Hokkaido dialect of Japanese	SASAKI, Kan	365
	鹿児島県の国語教育における標準語／方言イデオロギー ―戦中の「指導書」と戦後の教育雑誌をてがかりとして―	前田達朗	372

東北大学大学院 東北文化研究室紀要 五五(一四・三)	言語行動の枠組みに基づく方言会話記録の試み	小林 早隆 内間 美佳 佐藤 亜実	382
徳島大学国語国文学 二六(一三・三)	生活環境が生んだことば ―姫路市海岸地域を例として―	峪口 有香子	400
徳島大学総合科学部 人間社会文化研究 二二(一四・一一)	淡路島方言の実時間上の言語変化 ―『瀬戸内海言語図巻』との比較を通じて―	峪口 有香子 平井 松午	412
徳島大学総合科学部 言語文化研究 二二(一四・一一)	存在動詞「いる」「おる」にみる九州本島部における待遇表現	塩川 奈々美 清水 勇吉 清江 信介	422
富山大学人文学部紀要 五八(二三・二)	多治見方言における連母音の長母音化について	安藤 智子	428
鳴門教育大学国語教育学会 語文と教育 二八(一四・八)	高知市方言における文末のモダリティ形式「ニカ―ラン」の意味論的考察	橋尾 直和	447
西日本国語国文学会 西日本国語国文学 一(一四・七)	鹿児島方言の「イツ」と「イタツ」 ―テキストを使った方言研究の実践―	木部 暢子	458
日本語学研究所と資料の会 日本語学 研究と資料 三六(一三・三)	福岡方言文末詞バイの機能	笠 万裕美	465
日本大学国文学会 語文 一四五(二三・三)	データ統合・共有を目指したWeb言語地図の構築 ―成果公開サイト「日本大学文理学部Web言語地図」の試み―	田中 直樹 田中 ゆかり	471
日本大学国文学会 語文 一四七(二三・二)	ネット系若者ことばの地域差とその背景 ―首都圏・関西・広島大学に通う学生とその親に対するアンケート調査から―	田中 直樹 林 直樹	477
日本大学国文学会 語文 一五〇(二四・二)	「あいまい性」を捉えるための音響的指標の検討と分析データの構築 ―首都圏東部域を中心として―	林 直樹	492
日本女子大学紀要 文学部 六二(二三・三)	宮古島与那覇方言のアクセント交替 ―三モーラのフットを持つ方言―	松森 晶子	502
日本女子大学紀要 文学部 六三(二四・三)	多良間島のアクセント規則を再検討する	松森 晶子	513
ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会 清心語文 一五(二三・九)	岡山における連母音の融合状況 ―多人数調査から見る―	尾崎 喜光	525
ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会 清心語文 一六(二四・九)	岡山における連母音の融合状況(二) ―『岡山市民調査』から見る―	尾崎 喜光	531
弘前大学国語国文学 三五(一四・三)	沖縄県池間島方言の風位語彙	志村 文隆	540
広島大学国語国文学会 国文学叢 二七(一三・三)	日本語方言文末詞の生成と発展	町 博光	548
広島大学大学院 論叢 国語教育学 一〇(復刊五) (二四・七)	男性の一人称代名詞の地理的分布 ―『方言文法全国地図』を用いて―	小島 裕将	555
フェリス女学院大学国文学会 玉藻 四七(二三・二)	方言アクセントの個人差 ―宮城県気仙沼市のアクセントについて―	佐藤 亮一	561
フェリス女学院大学国文学会 玉藻 四八(二四・三)	方言における意味の諸相 ―ところ変われば意味も変わる―	佐藤 亮一	569
フェリス女学院大学国文学会 玉藻 四八(二四・三)	栃木県における気づかない方言	仲村 侑子	576

福岡大学研究部論集 A…人文科学編 一三四(一四・一)	九州・山口七県における不快感を表す形容語の県内差 — 大学生の実態 —	山 県	浩	*
福岡大学人文論叢 四六三(一四・二)	九州七県主要地域における不快感を表す形容語の枠組み — 大学生の実態 —	山 県	浩	*
福岡教育大学紀要 第一分冊 文科編 六三(一四・二)	依頼の場面の談話分析(二) — 大分県方言第二次調査資料による —	杉 村 孝 夫	582	
福岡教育大学紀要 第一分冊 文科編 六三(一四・二)	音調からみた福岡市博多方言の感情表出文	坪 内 佐 智 世	599	
福岡教育大学国語科研究論集 五四 (二・三)	方言研究の一方法としてのオーラルヒストリー	杉 村 孝 夫 多 久 島 鈴 沙	606	
方言・音声研究会 方言・音声研究 七 (二四・五)	阿波弁「懲り上げる」について	高 田 豊 輝	615	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三七(一三・三)	竹富島方言アクセントと「系列別語彙」 — 附 竹富島方言版「北風と太陽」 —	ウ エ イ ン ・ ロ ー レ ン ス	617	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三七(一三・三)	南琉球・宮古伊良部島にみる無アクセント方言のイントネーション	永 野 マ ド セ ン 泰 子	629	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三七(一三・三)	沖縄県名護市幸喜方言の擬声擬態語彙	か り ま た し げ ひ さ	639	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三七(一三・三)	続古見方言の基礎語彙(二)	加 治 工 真 市	660	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三七(一三・三)	琉球与那国方言体言のアクセント資料(二)	上 野 善 道	671	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三八(一四・三)	アグノエルの記した久高方言	石 崎 博 志 ウ エ イ ン ・ ロ ー レ ン ス	688	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三八(一四・三)	竹富島方言のいくつかの表現の使い分け — 指小辞・あなた・誰・ど・ことがあある・せずに —	ウ エ イ ン ・ ロ ー レ ン ス	698	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三八(一四・三)	琉球語宮古狩俣方言の音韻と文法	林 焯 智 秀 由 華	706	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三八(一四・三)	琉球与那国方言のアクセント資料(三)	上 野 善 道	723	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三八(一四・三)	沖縄県名護市幸喜方言の擬声擬態語彙 — 和琉辞典のこころみ	か り ま た し げ ひ さ	*	
法政大学沖縄文化研究所 琉球の方言 三八(一四・三)	続古見方言の基礎語彙(二)	加 治 工 真 市	735	
北海道教育大学函館国語会 函館国語 二八(一三・一)	『津軽道中譚』に見られる北海道語の特色	吉 田 麻 衣 城 近 奈 緒 美 夏 井 邦 男	九	
明海大学大学院応用言語学研究科紀要 応用言語学研究 一五(一三・三)	日本海沿岸地域における方言と標準語使用の実態 — 否定辞と敬語をめぐって —	山 下 暁 美	746	
山口大学教育学部研究論叢 人文科学・ 社会科学 自然科学 六一・二二 (二・一)	タイプ P.D.、P.C 方言の発見 — 熊本県北東部・ 大分県中西部方言の動詞テ形における形態音韻現 象 —	有 元 光 彦	753	

横浜国大言語教育研究 三九 (一三・一〇)	『山びこ学校』から見る共通語と方言	小野寺 泰子	763
立命館大学日本文学大会 論文日本文学 一〇〇(二四・五)	尊敬語補助動詞類の分布とその史的経緯——『方言文法全国地図』「書きますか」を主として——	彦坂 佳宣	一六
琉球大学 言語文化論叢 八(二一・三)	宮古佐良良方言助詞「ガ」「ヌ」の研究	田名 裕治	767
琉球大学 言語文化論叢 一一 (二四・三)	言語地図からみる宮古方言の身体語彙	中本 謙	777
琉球大学法文学部紀要 日本東洋文化論 集 一九(一三・三)	琉球宮古島野原方言の間接的エヴィデンシャルイ	かりまた しげひさ	788
琉球大学法文学部紀要 日本東洋文化論 集 二〇(二四・三)	北琉球・名護市幸喜方言の可能表現の文	かりまた しげひさ	795
早稲田大学国文学会 国文学研究 一七二(二四・三)	京阪式アクセント地域における三拍形容詞のアクセント——淡路島・大阪府南部を中心に——	山岡 華菜子	807

*……論説資料のページ数の制約により、掲載できなかった長大な論文

第五分冊 (コミュニケーション・言語学)

一 コミュニケーション

茨城大学留学生センター紀要 二一 (二・三・四)	「そう」によって表明される同意の強弱 — マルチモーダル分析の試み —	杉浦 秀行	1
愛媛大学人文学会 人文学論叢 一四 (二・三・四)	日本語敬語教育試論	村尾 恵一	11
桜美林大学言語教育研究所 桜美林言語 教育論叢 九 (一・三・三)	接続詞に注目した大学講義理解の試み — 専門科目の講義をもとに —	三宅 若菜 福島 智子	18
桜美林大学大学院言語教育研究所 言語 教育研究 三 (一・三・三)	応答表現 「そうです」の意味と用法	新屋 映子	24
大阪大学大学院 言語文化研究 四〇 (四・二)	国外在留邦人が語る東日本大震災… 対面の場にお ける意見交渉の過程とアイデンティティ表出を分 析する	秦 かおり	*
大阪大学大学院文学研究科 待兼山論叢 四七 日本学篇 (一・三・二)	携帯メールの世代差 — 大阪中年層女性の携帯メ ールから —	白坂 千里	29
学習院大学人文科学研究所 人文 一〇 (二・二)	「満洲国」における言語接触 — 新資料に見られ る言語接触の実態 —	張 守祥	36
学習院大学大学院日本語日本文学 九 (二・二)	朝日新聞における皇室への敬語使用の変遷	松本 敦	45
神奈川大学言語研究 三五 (一・三・二)	評価の高低によるクチコミサイト「アットコスメ」 における談話構造の特徴 — 修辞ユニット分析を 用いて —	田中 弥生	60
神奈川大学 人文学研究所報 五二 (二・四・八)	うそと皮肉はどう違うか — ことばの使用からこ ろをみる	武内 道子	72
関西外国語大学留学生別科日本語教育論 集 二二 (一・三・二)	Morphemic Code-Switching in Japanese/English Bilingualism	武藤 輝昭	81
関西外国語大学留学生別科日本語教育論 集 二二 (一・三・二)	Coconstructing meaning through dialogic interaction: A Bakhtinian approach to understanding the process of speech communication	小村 親英	94
神田外語大学大学院 言語科学研究 一九 (一・三・二)	第二言語とアイデンティティ — 言語文化教育學 の観点から —	堀場 裕紀江	105
関東学院大学文学部 比較文化論集 六 (二・四・二)	国際観光における言語ホスピタリティ	内田 真仁	115
京都産業大学論集 人文学系系列 四六 (二・三・一)	日本語の和らげ表現について — 『試論』の諸問 題 —	三好 準之助	127
京都府立大学国中文学会 和漢語文研究 一〇 (二・二・一)	進行管理の発話における「クテイタダキマショウ」 の機能	大久保 加奈子	141
熊本県立大学大学院文学研究科論集 六 (二・三・九)	熊本市内方言におけるコードスイッチング 特に アスペクト表現について	吉里 さち子	148
甲南女子大学研究紀要 文学・文化編 四九 (二・三・三)	民間テレビ局のニュース原稿に関する一考察 — 送り手と受け手の間の、読み方と語彙選択の齟 齬をめぐって —	甲斐 千代子	154
国際基督教大学日本語教育研究センター ICU日本語教育研究 九 (一・三・三)	「ええ」の機能に関する考察 — 文学作品の用例 分析を通して —	金山 泰子 二宮 理佳	159
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビュー 四二 (一・三・一〇)	会話コーパスの共有化に向けて… 転記方式の自動 変換	伝 康晴	165

国立国語研究所論集 七 (二四・五)	形態素解析の大規模言語調査データへの応用 岡崎敬語調査パネルデータにおける名詞・代名 詞・動詞の相対頻度数に対する話者性別効果の検 証	松田謙次郎	171
国立国語研究所論集 七 (二四・五)	黒龍江省方正県における日本語を中心とする言語 景観	張守祥	179
国立国語研究所論集 八 (二四・二)	在日外国人の多言語使用に対する Ethnolinguistic Validity Theory の適応可能性 在日バキスタン 人の事例	福永由佳	185
国立国語研究所論集 八 (二四・二)	ことばの丁寧さの経年変化と社会的要因 岡崎敬語調査から	柳村裕	194
駒沢女子大学研究紀要 一九 (二二・二)	クラス内での笑いと言語的・非言語的インタラ クション メタ記号分析	米金孝雄	204
埼玉大学紀要 教養学部 四九二 (二四・三)	日本語の反応詞について 「あ」はどんな機能 を持つか	小出慶一	215
相模女子大学紀要 社会系 七六〇 (二二・三)	メディアが世論に及ぼす影響 用語の頻度と政 権支持率の関係	石井眞人 鈴木飛鳥 栗栖初季	222
実践女子短期大学日本語コミュニケーションシ ョン学科 歌子 二二 (二四・三)	学生の辞書利用の実態についての小調査 4 辞書媒体の変移に注目して	大塚みさ	226
社会言語科学会 社会言語科学 一六一 (二二・九)	共有される他者のことば 選挙演説に用いられ るゼロ型引用表現の分析	大久保加奈子	233
社会言語科学会 社会言語科学 一六一 (二二・三)	非優先行為のフォーマットで産出される優先行為 の応答 後続の発話スペースが確保される事例 をめぐって	杜長俊	240
社会言語科学会 社会言語科学 一六一 (二四・三)	母語場面及び接触場面の同等初対面会話における アップシフトについて	嶋原耕一	247
社会言語科学会 社会言語科学 一七一 (二四・九)	在日コリアン生徒の属性と使用言語の関係 韓国学校でのアンケート調査をもとにして	生越直樹	252
首都大学東京都市教養学部人文・社会学系 人文学報 日本語教育学 四七三 (二二・三)	パラオで話されている日本語の実態 戦前日本 語教育経験者と若年層日本滞在経験者の比較	ダニエル・ ロング 今村圭介	260
昭和女子大学 生活心理研究所紀要 一六 (二四・三)	パブリックスピーキング・スキルの研究 対話をイメージさせる要因	河野義章	275
専修大学日本語日本文学文化学会 専修 国文 九四 (二四・一)	「全国若者語調査」結果概観	鎚水兼貴	279
相愛大学研究論集 二九 (二二・三)	「コミュニケーション」を考える 様々な文化 の相違とコミュニケーション	森光有子	292
待遇コミュニケーション学会 待遇コミ ュニケーション研究 一一 (二四・二)	会話の中で相手に共感できない場合の発話の特徴 相互行為の観点から	釜田友里江	300
拓殖大学言語文化研究所 語学研究 二二八 (二二・三)	否定表現の談話分析・歌詞をデータとして	山田政通	308
中央学院大学人間・自然論叢 三八 (二四・七)	大学生の日本語読解力に対する自己評価	田島ますみ	326
中国四国教育学会 教育学研究紀要 CD-ROM版 五九 (二四・三)	聞き取りからのストーリー・テリングを素材とし た談話分析 日本語母語話者と日本語学習者の 「ことば」の使用に注目して	児島由佳	336
筑波大学外国語センター 外国語教育論 集 三五 (二二・三)	映画の日本語字幕版におけるジェンダー・マーカ の過剰使用に関する一考察 ソフト・パワー」としての日本語字幕作品	福田有美	339

津田塾大学言語文化研究所報 一九 (二・四・七)	豊嶋 朗子	348
東海学園大学研究紀要 一九 人文科学 研究編 (二四・二)	的場 正美	353
東京大学言語学論集 三四 (一・三・九)	Rika YAMASHITA	364
東京大学言語学論集 三四 (一・三・九)	レゴ組み立て課題を通して見る日本語の指示詞コ とソ	372
東京外国語大学国際日本研究センター 日本語・日文学研究 三 (一・三・三)	安庭 真弓	372
東京女子大学比較文化研究所紀要 七四 (二・一)	葉 淑華	380
東京農工大学国際センター・電気通信大 学国際交流推進センター 多摩留学生教 育研究論集 九 (一四・三)	熊谷 智子	392
同志社大学日本語・日本文化研究 一 (二・一)	米澤 昌子	404
東北大学文学会 文化 七六・三・四 (二・一)	甲田 直美	412
東洋大学文学部紀要 日本文学文化篇 文学論叢 八八 (一四・二)	三宅 和子	422
常葉大学短期大学部紀要 四四 (二・一)	宮本 淳子	432
名古屋大学大学院国際言語文化研究科 言語文化論集 三五 (一・三・一)	Chad Nilep	439
南山大学大学院 南山言語科学 八 (二・三)	立部 文崇	448
南山大学大学院 南山言語科学 八 (二・三)	山田 葵	458
日本音響学会誌 七〇・二 (一四・二)	小田 正明	467
日本言語文化研究会 日本語文化研究 一八 (三・二)	佐藤 逸人	467
日本言語文化研究会 日本語文化研究 一八 (三・二)	森本 奈緒	472
日本語／日本語教育研究会 日本語／日 本語教育研究 四 (一・三・〇)	西 部 詩 織	472
日本大学国文学会 語文 一四六 (二・一)	原 田 幸 一	481
日本女子大学紀要 文学部 六一 (二・三・一)	中 澤 彩 香	489
日本女子大学国語国文学会 国文目白 五三 (二四・一)	Yoko FUJII	495
日本通訳翻訳学会 通訳翻訳研究 一四 (二・一)	北島 礼子	501
	鄭 雁 天	501

コミュニケーションアプローチを用いた学習や指導
による言語能力向上の可能性…認知心理と脳科学
の視点から

授業分析における分析単位と解釈の機能

Peer Effect in Language Choice: Urdu-Japanese
Bilingual Pupils in Complementary School
Classroom

「はい」発話を伴う非言語行動の考察
—eラーニング教材を例に—

日本語の「謝罪」をめぐるフェイスワーク
—言語行動の対照研究から—

複言語接触場面における留学生の日本語使用
聞き手を意識した「ていたたく」の使用
—TVのトーク番組における用例の分析—

「語り」の終結における中途終了形式

在英日系ディアスポラの言語生活 —国際結婚し
た日本人女性とコミュニティの形成—

発話頭の「は」が生み出す「共話」 —配慮の二面
性の解明を目指して—

Distinct Functions of quotative markers:
Evidence from Meitai Kaiva Corpus

情報の帰属性では説明できない終助詞「ね」の特
質 —事態把握に関わる「伝達」と「確信」が談話
に及ぼす作用—

自然談話における「マア」の使用について
—談話上の機能と話し手の情報処理のプロセス—

公共空間におけるアナウンスの許容発話速度と音
声レベル

フィギュアスケートの実況放送の談話分析
—地上波放送と有料放送の違いに注目して—

首都圏の若年層による「ゆうてむ」の使用
—大学生による日常会話をデータとして—

若年層の携帯メールにおける謝罪表現 —ロール
プレイングによるテキスト分析から—

Social indexicality of the “zero” form of address
in Japanese: The interpretation from
the *Amae* concept on the basis of “inseparable self
and the other”

日本語母語話者大学生の言語コミュニケーション
—親しさと上下関係を中心に—

テレビドラマの日本語字幕における注の機能主義
的分析 —中国宮廷ドラマ『步步驚心』を例に—

梅花女子大学大学院日本文学会 文論叢 二二 (一三・二)	梅花日	512
東アジア日本語教育・日本文化研究学会 東アジア日本語教育・日本文化研究 一七 (二四・三)	高橋 晴香	512
姫路協働大学大学院 日本語教育論集 二二三 (一四・三)	孫 成志	520
広島大学国語国文学会 国文学叢 二二〇 (一三・二)	苗 田 敏 美	529
広島女学院大学日本文学会 国語国文学 誌 四四 (一四・二)	高 永 哲 朗 茂	533
広島女学院大学院言語文化論叢 一六 (一三・三)	渡 邊 ゆかり	541
母語・継承語・バイリンガル教育(MHB) 研究会 母語・継承語・バイリンガ ル教育(MHB) 研究 一〇 (二四・三)	大 場 美和子	556
北海道大学大学院 国際広報メディア・ 観光学ジャーナル 一八 (一四・三)	神 代 浩	569
北海道大学大学院文学研究科研究論集 二二 (一三・二)	柴 山 真 琴 ビアルケ(當山)	572
北海道大学大学院 メディア・コミュニ ケーション研究 六五 (二三・二)	池 上 摩 希 子 高 橋 登 映	585
武蔵野大学グローバル教育研究センター Global Communication 2 (一三・二)	呂 田 未 季	594
明海大学 Journal of Hospitality and Tourism 9-1 (一三・二)	張 玲 玲	601
明海大学大学院応用言語学研究科紀要 応用言語学研究 一六 (一四・三)	名 塩 征 史	610
明海大学大学院応用言語学研究科紀要 応用言語学研究 一六 (一四・三)	劉 恋	622
明海大学日本文学 三九 (二三・六)	中 井 延 美	629
山口県立大学学術情報 (電子版) 七 (二四・三)	山 下 暁 美	633
横浜国立大学留学生センター教育研究論 集 二二 (一三・二)	中 西 太 郎	642
早稲田大学日本語教育研究センター言語 文化教育研究会 言語文化教育研究 一一 (一三・二)	宮 玉 岡 弥 賀 津 雄 林 岡 燦 情	655
	山 金 庭 久 美 子 奥 野 森 理 由 紀 子	659
	工 藤 理 恵	668
	大 阪 府・京 都 府・滋 賀 県 の 地 名 手 話 の 比 較	
	「くテクレル」構文に関する語用論的考察	
	ミニッツペーパーに見られる話しことばの「考察 —書きことばの定着が難しい話しことば— 医療面接における表現モダリティの複層性につい ての研究— 歯科医療面接の事例を中心にして— 少人数企画会議における、とりまとめ役の談話管 理スタイル2 —とりまとめ役のターン譲渡と獲 得の仕方の観点から— 取材の談話とテレビニュースの談話の比較 —「国語」に関する世論調査に対する専門家の解説 の再構成のプロセス— 「国際教育」と言語教育	
	同時バイリンガル幼児の萌芽的読み書き行動の形 成過程	
	注意概念を用いたソ系の分析と談話管理理論	
	広告表現の語用論的機能に関する一考察 —平叙文を中心に—	
	受容過程に生じたトラブルに対処する修復につい て—フュエイスに関わるものを中心として—	
	ある行為の可能性を備える環境の捉え直しとその きつかけとなりうる「語発話—「知覚—行為」 との関連でみる発話の効果—	
	日本人社員と中国人社員のあいづち使用 —ビジネス電話の会話展開の影響—	
	待遇名詞句表現の指示性と形式特性について	
	命綱としての日本語 —「災害時命綱カード」の 提唱—	
	あいさつ表現の使用実態の地域差 —朝の出会い 時を中心に—	
	明治時代語における下層男性の自称詞について —社会言語学と通時言語学の視点から—	
	大学教員間の「さん」と「先生」の呼称選択に影響 する諸要因	
	談話における確認表現の「じゃないか」—『女性 のことば』『男性のことば』のデータから—	
	言語活動における沈黙の意味 沈黙は言語活動の 停滞か	

二 言語学

大阪大学国語国文学会 語文 一〇〇・ 一〇一 (三三・一一)	換喩もどきの指示性について	大田垣 仁	676
大阪大学大学院文学研究科 待兼山論叢 四八 哲学篇 (一四・一一)	問いと推論	入江 幸男	683
神田外語大学大学院 言語科学研究 一九 (三三・三)	アスペクト的結果構文の類型についての試論	岩本 遠億	691
九州大学大学院 言語文化論究 三〇 (二・三)	日本語における上下メタファーの体系構成及びその特徴に関する一考察	井 鐘 上 奈良 彦 ル デ イ ト ー ト	699
京都大学言語学研究 三二 (三三・二)	日本語の態体系の最適性理論的分析の可能性について	黒河 萩 正 嗣 橋 原 大 輔	706
言語処理学会 自然言語処理 二二・二 (二四・四)	多様な文書の書き始めに対する意味関係タグ付きコーパスの構築とその分析	関 洋 平	719
言語処理学会 自然言語処理 二二・二 (二四・四)	コミュニティQAにおける意見分析のためのアノテーションに関する一検討	沈 池 英 明 石 川 則 夫	737
言語処理学会 自然言語処理 二二・三 (二四・六)	音声言語コーパスにおけるspeaking styleの自動推定 ―転記テキストに着目して―	朝 日 祥 之	752
國學院大學 國學院雑誌 一一五・一一 (二四・一一)	佐藤信夫の言語論 ―言語にいらだつ詩人のように―	影 山 太 郎	—
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビニュー 四一 (三三・六)	言語変容の類型化に向けて	寺 尾 康	763
国立国語研究所 国語研プロジェクトレ ビニュー 五一 (二四・六)	日本語複合動詞の言語類型論的意義	Ken-ichiro Kanachi	767
志學館大学人間関係学部研究紀要 三四一 (三三・一)	Epistemic Markers and Evidential Markers	荻 野 明 男 安 達 信 明 浜 野 大 明 塚 本 智 哉 田 中 聡 敏 尹 智 敏	772
静岡県立大学 ことばと文化 一七 (二四・二)	言語産出研究からみるイデオム…予備的考察	堀 野 郁 実 四 日 市 章	778
日本大学文学部人文科学研究 研究 紀要 八七 (二四・三)	コーパス言語学の新しい展開	Nguyen Thanh Tam	788
日本通訳翻訳学会 通訳翻訳研究 一四 (二四・一一)	異文化対照法としての重訳	ブガエフ・ アンナ	818
日本通訳翻訳学会 通訳翻訳研究 一四 (二四・一一)	アイヌ語使役構文に関する再考察	高 橋 靖 以	826
北方言語ネットワーク 北方言語研究 四 (二四・三)	アイヌ語十勝方言における名詞化節の脱従属節化	井 口 靖	833
北方言語ネットワーク 北方言語研究 四 (二四・三)	日本語の類型について ―「アルタイ型言語」の 説明を指して―	風 間 伸 次 郎	844
三重大学文学部文化学科研究紀要 人 文論叢 三〇 (三三・三)	文の理解における予測について		848

* …… 論説資料のページ数の制約により、掲載できなかった長大な論文
** …… 著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

第五分冊増刊(対照研究)

対照研究

宇都宮大学国際学部附属多文化公共センター年報 五(一三三)	日中両言語における数量表現の形式と意味の対照関係	范 喜春	1
海山文化研究所 対照言語学 研究 一三三(二・三・一)	新聞記事における主語のあり方と視点との関わり —中日両語の比較を中心として—	彭 広陸	6
大阪大学国語国文学会 語文 一〇三(四・二)	流音の特徴から見た役割語としての韓中ピジン —日中ピジン資料を参照しつつ—	金 旻貞	17
大阪大学古代中世文学研究会 詞林 五三(一三・四)	源氏物語の享受作品「あさきゆめみし」の韓比 較 —王権・呼称・待遇を中心として—	越 野 優子	25
大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究 一二(一四・三)	日本語特有の謙讓表現・氣遣いの表現をどう英訳するか —日英通訳の授業で現れる問題点を考える—	小 倉 慶 郎	32
大阪大学大学院文学研究科 待兼山論叢 四八 日本文学篇 (一四・二)	政治談話における他称のレトリックストラテジー —日韓の街頭演説にみられる使用を中心に—	韓 娥 凜	37
大阪大学大学院文学研究科 待兼山論叢 四七 文学篇 (一三・二)	A Comparison of the Speech Patterns of Japanese and English Speakers in Discussions	Anti-TSUKAMOTO	47
大阪大学大学院文学研究科 待兼山論叢 四八 文学篇 (一四・二)	直示用法における日本語とモンゴル語の指示詞の対照研究 —視点の融合と視点の対立を手掛かりに—	巴 雅 尔 都 楞	53
大阪国際大学 国際研究論叢 一六三(二・三・一)	日本語・英語・クメール語におけるオノマトペの対照研究	岩 崎 真 哉	61
大阪府立大学 言語文化学 研究 言語情報編 八(一三・一)	断る場面における詫び表現について —中国の日本語学習者と日本語母語話者を比較して—	周 升 干	68
大阪府立大学 言語文化学 研究 言語情報編 八(一三・一)	日本語と中国語の受身文の対照研究 —網羅的な記述を目指して—	李 湘 琴	76
大妻女子大学紀要 文系 四六(一四・一)	Japanese and Basque Language Similarities	Ronald W. Thornton	86
関西外国語大学大学院研究論叢 FONS LINGVAE 38(一四・一〇)	十二支の動物に関する諺の言語文化的比較研究 —「牛」「虎」「馬」を中心として—	王 嘉	94
関西外国語大学大学院研究論叢 FONS LINGVAE 38(一四・一〇)	日韓のポライトネスについて	韓 恵 盛	106
関西外国語大学・京都外国語短期大学 Cosmica 43(一四・一)	日中両言語における若者「とば」の特徴をめぐって	金 昕	119
京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢 八一(一三・七)	比喩表現について(一五) —フランスと日本の故事・諺・成句にみられる香辛料・ハーブ、調味料の語彙による比喩表現を中心として—	小 倉 博 史	130
京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢 八一(一三・七)	オノマトペの伝達上の価値(三) —物語テキストにおける日独語対照—	乙 政 潤	139
京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢 八二(一四・一)	ロマン諸語における語の有縁性と比喩表現について(一六) —ロマンス諸語(フランス語、イタリア語、ルーマニア語、スペイン語、ポルトガル語)と日本語の故事、諺、成句にみられる四大(地・水・火・空気)による比喩表現を中心として—	小 倉 博 史	147
京都産業大学日本文化研究所紀要 一九(二・一)	初・中級テキストから見る日本語と韓国語の対照をめぐって —動詞を中心に—	金 玉 英	***

京都産業大学論集 人文科学系列 四七 (二四・三)	日本語の「はい」とスペイン語の sí について	三好 準之助	153
近畿大学教養・外国語教育センター紀要 外国語編 五一(二四・七)	擬音語・擬態語に関する日英対照研究 —Batrix Potter「The Tale of Peter Rabbit」他で その日本語訳を観察対象として—	西村 香奈絵	168
金城学院大学論集 人文科学編 一〇二 (二四・三)	英日翻訳の多次元シフト —名詞・代名詞をめぐ つて—	河原 清志	178
熊本学園大学文学・言語学論集 二二一 (二四・六)	日中韓三言語における笑う様子を表す擬態語の比 較対照研究 —表情と笑い方を中心に—	李 大年	187
言語と交流研究会 言語と交流 一七 (二四・七)	複数出来事間の時制関係 —日中両言語の後文が 非過去である場合—	孫 偉	187
高知大学留学生教育 七(三三・三)	中国語と日本語の数字に見る文化的要素に関する 一考察	林 翠芳	194
神戸大学文学部 国文論叢 四六 (三三・三)	申し出表現の形式 —日本語・中国語・英語・韓 国語の対照研究—	楊 吟	201
神戸市外国語大学研究会 神戸外大論叢 六三三(三三・三)	日西モダリティ対照研究史 (一)	福 寛 教 隆	210
神戸市外国語大学研究会 神戸外大論叢 六四一五(二四・三)	日西モダリティ対照研究史 (二)	福 寛 教 隆	215
神戸市外国語大学外国学研究所 外国学 研究 八三(三三・三)	ベトナム語の方向動詞 <i>đi về</i> の文法化 —日本語の「こむ」との対照を試みて—	村上 雄太郎	223
神戸市外国語大学研究科論集 二五 (二二・二)	Analisis contrastivo entre los clasificadores del japones y los nombres partitivos del español	Juan Romero Díaz	231
神戸女子大学英文学大会 28 (三三・三)	思考動詞の日英対照研究 —村上春樹の『海辺の カフカ』を題材として—	濱 側 桃	238
國學院大學日本語教育研究 五 (二四・三)	日本語・フィンランド語の意味の対照研究 —加熟料理動詞「ゆでる」の対応を中心に—	本 間 美 奈 子	244
国立国語研究所論集 八(二四・二)	Revisiting Relative Clauses in Japanese, with Reference to Bangla	Razau Karim FAQUIRE	252
札幌大学外国語学部紀要 文化と言語 七八(三三・三)	日英語話者の視点構図と事態内参与者の言語化/ 非言語化	濱 田 英 人	261
実践女子大学人間社会学部紀要 九 (三三・三)	視点表現の日仏比較 —川端「雪国」を通して—	鶴 見 千 津 子	271
首都大学東京都市教養学部人文・社会学系 人文学報 日本語教育学 四八八 (二四・三)	翻訳を用いた日韓語研究に関する一考察 —「は／が」と「은／가」の対応を中心に—	崔 文 姬	276
上智大学 Sophia Linguistica 61 (二四・三)	日英語の事象無効化 —因果連鎖構造からの分析 に向けて—	江 連 和 章	289
上智大学 Sophia Linguistica 61 (二四・三)	テレビニュースはチャベス語録をいかに伝えたの か —報道における翻訳の問題	矢 田 陽 子	297
白百合女子大学国語国文学会 国文白百 合 四五(二四・三)	日中可能表現に関する対照研究 —「うる／ゝ える」を中心に—	呉 志 寧	307
信州大学教育学部研究論集 六 (三三・七)	日英語の形容詞の語順の比較 —old colorful pots が「色鮮やかな古いつぼ」になるのはなぜか—	田 中 加 奈 子 関 谷 江 扶	313
聖学院大学論叢 二六二(三三・三)	日英の二重母音比較論	加 曾 利 実	320
全国大学国語国文学会 文学・語学 二二(二四・二)	現代語の形成と中央語の伝播 —『新スラヴ日本 語辞典』を資料として—	駒 走 昭 二	327

待遇コミュニケーション学云 待遇コミュニケーション研究 一一 (一四・二)	人格保持のスピーチレベルについて — 韓国語との対照から —	佐藤 恵理	333
待遇コミュニケーション学云 待遇コミュニケーション研究 一一 (一四・二)	敬語コミュニケーションを阻害する文化的な違いについて — 日中の「親しくなること」「親しくなるためのストラテジー」の相違を中心に —	薛 本 鳴	342
拓殖大学大学院 言語教育研究科研究年報 一三 (一三・三)	日本語と「ミヤンマー」語の呼称詞に関する対照研究	KHIN CHAW LEI WIN	350
中国四国教育学云 教育学研究紀要 五八 (一三・三)	日本語と中国語の主題・主格の省略について — 『伊豆の踊子』を検討材料として —	穆 欣	355
中国四国教育学云 教育学研究ジャーナル 一四 (一四・三)	日中両言語における指示詞の省略可能性 — 名詞が表す数量の違いを焦点に —	陳 熾 如	358
朝鮮学云 朝鮮学報 一三三 (一四・一)	現代韓国語と日本語の反語法文を成立させる語用論的条件について	金 善 美	363
朝鮮学云 朝鮮学報 一三三 (一四・一)	現代韓国語の「(으)다」構文について — 日本語の「ある/いる」構文との対照言語学的考察 —	韓 必 南	376
筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻 文芸言語研究 言語篇 六四 (一三・一)	女子学生による自己開示の開示内容面と心理面に関する日中対照研究	一三三 朋 子	404
東海大学紀要 国際教育センター 三 (二・三)	日中両語における動詞の自他の対応について — 存在文の場合 —	北 村 よう	414
東京大学言語学論集 三三 (一三・一)	Expressions of Exceeding of Expectational Limits in Japanese and English	Shigeo Sugitara	421
東京外国語大学記述言語学論集 思言 九 (一三・一)	Contrastive study of Japanese <i>re oku</i> and Uzbek <i>-(ib) go -y-</i>	Hidaka Shinsuke	431
東京外国語大学 日本研究教育年報 一七 (二・三)	改善要求の場面における働きかけ方略の対照研究 — 日本語母語話者とウクライナ語母語話者の大学生の場合 —	ザブランナ オレスタ	441
東京都立大学国語国文学会 都大論究 五一 (一四・六)	日本語の疑問文とそれに対応する中国語の疑問文について — 動詞述語の諾否疑問文を対象に —	林 香 淑	455
東京農工大学国際センター・電気通信大学国際交流推進センター 多摩留学生教育研究論集 九 (一四・三)	日本人と韓国人の対人関係観の違い — 「遠慮・察しコミュニケーション」の枠組みから —	小山 慎 治	450
東北大学言語学論集 二二 (一三・九)	日中両言語における呼称詞についての対照研究 — ポライトネス理論の観点から —	劉 寧	455
東北大学言語学論集 二二 (一四・二)	日韓両言語の類似性の認識に関する一考察 — 大学生のアンケート調査の結果から	李 在 濬	463
東北大学大学院文学研究科言語科学専攻 言語科学論集 一七 (一三・一)	韓国語の使役移動動詞とその日本語訳に見られる語彙化のパターンと多義性	金 祉 諱	470
東洋大学大学院紀要 文学研究科 国文学専攻 四九 (一三・三)	日本語と中国語における謝罪表現の対照研究 — 家族と親友間の異なりに注目して —	趙 翻	476
東洋大学大学院紀要 文学研究科 国文学専攻 五〇 (一四・三)	日中三都市における謝罪行動 — 東京・大連・杭州における言語表現と地方差 —	趙 翻	490
徳島大学国語国文学 二五 (一三・三)	「하다」動詞と「する」動詞の対応様相 — 同一漢語語幹を中心に —	瀧 口 恵 子	499
名古屋大学 Nagoya Linguistics (名古屋言語研究) 7 (一三・三)	「文脈的照応」における日本語の限定標示 — アラビア語を背景にした分析 —	モスタファ ヤスミン	510
名古屋大学 Nagoya Linguistics (名古屋言語研究) 8 (一四・三)	日本語文章の開始部と終了部について — インドネシア語文章との対照を通して —	Didik Nurhadi	516

名古屋大学言語文化研究会 学 二六 (二二・一二)	ことばの科	日本語と韓国語の同形二字漢字語の形態統語的類似性と相違性に関するコーパス研究	朴 善嫻	524
名古屋大学言語文化研究会 学 二六 (二二・一二)	ことばの科	テレビドラマにおける「助言」のストラテジーと選択頻度に関する日中対照研究	黄 郁蕾	534
名古屋大学言語文化研究会 学 二七 (四・一二)	ことばの科	同形二字漢字語の品詞性に関する日韓中データベースの概要	玉熊 朴 岡 善可 賀津 欣嫻	544
名古屋大学言語文化研究会 学 二七 (四・一二)	ことばの科	日中同形二字漢字語の品詞性の対応関係に関する考察	玉熊 岡 賀津 欣嫻	555
名古屋大学言語文化研究会 学 二七 (四・一二)	ことばの科	同形二字漢字語の品詞性に関する日韓中データベース	玉熊 朴 岡 善可 賀津 欣嫻	569
名古屋大学言語文化研究会 学 二八 (二四・一二)	ことばの科	《言葉は液体》のメタファー再考 — 日中対照の観点から —	韓 涛	599
南山大学 アカデミア 文学・語学編 九三 (一三・一一)	文学・語学編	日・中・韓漢字音読み分け原則の比較	周 錦樟	606
南山大学大学院 南山言語科学 (二・一二)	八	日本語母語話者と韓国人日本語学習者の不同意表明の比較	高 嶋 洋子	615
日本英語学会 English Linguistics 30-2 (一三・一一)	English Linguistics	FOCUSED GENITIVE SUBJECT IN JAPANESE AND MONGOLIAN	HIDEKI MAKI MEGUMI HASEBE LINA BAO	625
日本エドワード・サピア協会研究年報 二八 (二四・三)	言語研究 一四五	補助動詞「みる」の翻訳可能性について — 芥川龍之介「鼻」とその英訳を資料として —	霜 崎 實	631
日本語学会 言語研究 一四五 (二四・一二)	言語研究 一四五	日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化 — 他言語との比較対照と合目させて —	澤 田 淳	638
日本語文化研究会論集 一〇 (二四・一二)	一〇	「勉強する」と「learn」の対象語と使用場面 — 日本語とタイ語の書き言葉コーパスを用いて —	プ ラ フ ァ ン, コ ン マ パ ッ ト	655
日本語／日本語教育研究会 日本語／日 本語教育研究 五 (二四・五)	日本語／日 本語教育研究 五 (二四・五)	疑問形式による改善要求表現の日中対照 — 話者と事態との関わり方から —	李 国 玲	669
日本語／日本語教育研究会 日本語／日 本語教育研究 五 (二四・五)	日本語／日 本語教育研究 五 (二四・五)	ビジネス場面に見る敬意表現の使用傾向 — 日本語母語話者と台湾人日本語学習者の比較	喬 曉 筠	674
日本女子大学紀要 文学部 六三 (二四・二)	文学部 六三	日英新聞コーパス及びBCCWJ比較に基づく二字漢語動名詞使用の分析	中 田 清和 美子	682
日本女子大学大学院文学研究科紀要 一〇 (一四・三)	文学研究科紀要 一〇 (一四・三)	How Do Listeners Participate in Conversation?: A Study of Backchannels in Japanese and English	KOBAYASHI Kaori	688
日本通訳翻訳学会 通訳翻訳研究 一四 (二四・一二)	通訳翻訳研究 一四	日本語「ベトナム語」の双方向通訳に見られる明示化ストラテジー	グ エ ン ・ ヴ ァ ン ・ テ イ ・ ミ ン	695
日本通訳翻訳学会 通訳翻訳研究 一四 (二四・一二)	通訳翻訳研究 一四	日中同時通訳における処理単位について	龐 焱	706
日本通訳翻訳学会 通訳翻訳研究 一四 (二四・一二)	通訳翻訳研究 一四	Translation Shifts in Japanese-English Translations of Speech Scripts: Case Study of Two Speeches Given by Empress Michiko	TOSHIOKA Saeika	712
日本通訳翻訳学会 通訳翻訳研究 一四 (二四・一二)	通訳翻訳研究 一四	医療通訳の共通基準 — 国内外の比較を通じて —	大 野 直 子 野 嶋 直 子	720
日本比較文化学会 比較文化研究 九一 (二〇・一二)	比較文化研究 九一	日本語と中国語の諺に見る貧の原因	浮 銭 田 三 清 郎	728
日本比較文化学会 比較文化研究 九四 (二〇・一二)	比較文化研究 九四	日中「商売」に関する諺に見る比喻表現	浮 銭 田 三 清 郎	735

東アジア日本語教育・日本文化研究学会 東アジア日本語教育・日本文化研究 一七 (一四・三)	日中広告言葉のフォーカスについての考察	趙嵐	740
東アジア日本語教育・日本文化研究学会 東アジア日本語教育・日本文化研究 一七 (一四・三)	中日同形語「秒殺」に関する一考察	林孫	748
東アジア日本語教育・日本文化研究学会 東アジア日本語教育・日本文化研究 一七 (一四・三)	日本語「てもらう」構文と中国語対応表現の対照 研究 ―対訳コーパスから日本語教育へ―	張修 晨利 曦功	755
広島大学国際センター紀要 二 (二・三)	「ウサギ」にまつわる日中諺の対照比較考察	王田 三郎 雪	764
広島大学日本語教育研究 一五 (二四・三)	役割語によって喚起される使用者のイメージ ―韓国入日本語学習者と日本語母語話者を比較し て―	李村 田彩 田香 良恩 太	768
福井大学教育地域科学部紀要 三 (二・一)	日英多義語の認知意味論的分析 ―「トバ」and「word」―	皆島 博	771
北海道大学大学院文学研究科研究論集 一四 (一四・一)	日本語とイタリア語における時間を表す副詞につ いて	チエスバ・ マリアンナ	780
北海道教育大学紀要 人文科学・社会学 学編 六三二 (一三・一)	日本語の「Vこと」にする「中国語の「決定」 ―「中日対訳コーパス」を資料として―	阿部 二玉 貴郎	791
武蔵大学人文学会雑誌 四五―二二 (二・一)	継続と変化 ―ドイツ語と日本語の言語類型論的 考察	新田 春夫	799
武蔵野学院大学大学院研究紀要 六 (二・四)	Hedges and Rising Intonation: Politeness Phenomena in English and Japanese	Hiroko Umeda	819
明海大学大学院応用言語学研究科紀要 応用言語学研究 一五 (二・三)	中国語母語話者の中国語自由会話における言いさ し使用 ―日本語会話との比較から考える普遍性 と個別性―	荻原 稚佳子	828
立命館大学大学院言語教育情報研究科 Studies in Language Science 3 (二・一)	日本語・英語・中国語の新聞の社説に現れるStance 表現とEngagement表現 ―中国語の特徴を中心に―	Lee 彩風 虹子	835

***……著作権者と連絡がとれなかったため紹介にとどめた論文

日本語学論説資料 第51号

収録論文一覧

2016年 9月30日発行

協力 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立国語研究所

発行 論説資料保存会
代表者 常盤浩行

〒173-0036
東京都板橋区向原3-10-2 (柵北辰内)

日本語学論説資料 第51号 発行日

第1分冊	2016年 9月30日
第2分冊	2016年 9月30日
第3分冊	2016年 9月30日
第4分冊	2016年 9月30日
第5分冊	2016年 9月30日